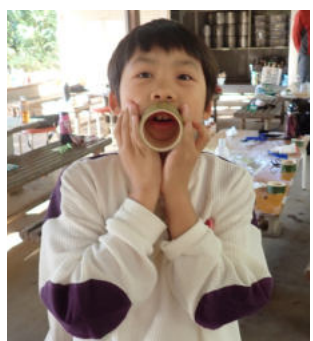




DO MY BEST



BEST



いまだからこそ大切なことは何か？

はじめに

「一番楽しかったのは宿泊体験！」(富山県 小学6年生)

昨年末、12月29日「子ども科学電話相談」という番組がNHKラジオで流れました。その日は富山県の小学6年生が電話で重力について質問をしていました。多少時間が余ったのか、アナウンサーがこう聞きました。「この1年間の中で何が一番楽しかった？」。その子はすぐに「宿泊学習」と答え、そして次に「能登に行きました」と言ったのです。ほんの15秒ほどのやりとりでしたが、私は非常に感動しました。「能登」という名称が出たからではなく、それはその子が6年生の様々な行事の中で「宿泊体験」を一番を選んでくれたからです。ここに私たち施設職員にとって、とても大切なエールがあると思います。まさに「宿泊体験」が子どもたちのニーズであることを教えてくれたと同時に、子どもたちが「やりたい！」という強い気持ちの表れなのです。それを確信できた瞬間でした。

「宿泊体験」は子どもたちの大切なニーズ

きっとこの6年生は宿泊体験学習の中で「本物の体験活動」と出会い、それを通じて「友達と協力できた」という達成感を得ることができたからこそ、そう答えたのではないかと考えます。ここに今後の私たちの大切な指針があると思います。

私たちの大切な指針は「譲らない」「守りたい」という強い信念

私達の施設は大幅な予算ダウンの中で長期間の休館、職員数の減少など厳しい状況が続いています。しかし、その中においても大切なことは全職員で知恵や力を合わせて「本物の体験活動」(本物：生き生きとした)を通じた「仲間づくり」のときを子どもたちに提供し、支援し続けることだと思っています。ここだけは「譲らない」「守りたい」という強い信念を持ち続けることがいま一番重要なことだと思っています。

(1) 2024年度を振り返る① 「能登半島地震の対応」

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災対応を当日から現在まで継続して行ってきました。当所の宿泊、生活機能、研修、教育機能を活用し可能な限りの支援をしてきました。

【震災関係宿泊団体】

- ・二次避難所対応：県内2高校 延べ6400名・復興関係団体：121団体延べ6,500名
- ・ボランティア団体：251団体 延べ1,420名

【笑顔キャラバン隊】(学校へのアウトリーチ)

- ・小学校6校 参加児童等 547名(昨年度含む)

【リフレッシュキャンプ】

- ・リフレッシュデイキャンプ(1泊キャンプ含む)第1回～第7回 児童・生徒163名
- ・リフレッシュキャンプ(14回実施) 児童・生徒640名 ボランティア108名

このような被災対応の中で、特に印象に残っているのは輪島市の小学校のことです。

校長会に伺った時、ある校長先生からの「本年度3月に卒業する輪島6校の6年生に何とか宿泊行事をさせてあげたい」という声でした。当時、6校は輪島中学校を間借りし、体育館、運動場も使用できず、学校行事もできないという状況でした。様々なことをがまんする子どもたちに、体験活動や宿泊をさせてあげたいという校長先生の強い思いに感動せずにはられませんでした。そのキャンプを10月24日～25日まで1泊2日、73名で実施できました。つどいの広場（かんぼラジオ体操広場）で全員が班ごとに焚火をしたシーンが忘れられません。そして、全体を通じて多くの子どもたちがリフレッシュキャンプでボランティアや本部応援職員と出会い、活動し、笑顔を咲かせ、心を前向きにする瞬間を創り出すことができました。関係の皆様には心からお礼を申し上げます。

(2) 2024年度を振り返る② 「研修支援のさらなる充実」

「子どもたちの助け合う姿が見られたんですよ」。野外炊事の指導が終わり、汗と炭で真っ黒になりながら満足そうに専門職員が言います。こんな施設のワンシーンの中に私たちの目指す研修支援の大切な「目的と手段」がみえてくるのです。特に、本年度は「あいさつ」「チャレンジ」「仲間づくり」これが当所の研修支援の3つの柱でした。

「きょうりよくすれば仲良くなれる」(通学合宿のアンケートより)

子どもたちが教えてくれた言葉です。そのために本施設は「家」という名称なのです。このことを研修支援の中で実践していくことを重点的に取り組みました。数値においては【教育的満足度(レポート)】昨年度82.0% 本年度91.8%(+9.8%)、【活動プログラム有効度】昨年度89.2% 本年度94.1%(+4.9%)でした。

さらに本年度は団体間で活動場所を調整する合同事前受付形式を180度変えました。専門職がそれぞれの団体の活動のねらいに沿って調整する方式に変え、個別の事前相談に応じながらオーダーメイドのプログラムづくりに取り組みました。その結果、【事前相談の満足度】昨年度77.2%、本年度82.9%(+5.7%)と数値が向上しました。

(3) 2024年度を振り返る③ 「新たな地域探究・能登ステージを展開」

石川県立羽咋高等学校の井上校長先生の探究に対する熱い思いから、本年度より学校型の地域探究(オリエンテーション合宿)がスタートしました。しかし、専門職員から「同じ県立の鶴来高等学校やその他の高校生が参加する公募型の地域探究の取組も、意義があるので継続させてほしい」と声があり、公募型も継続させ、さらにこの2本を交流させる「能登ステージ」を始動しました。新年度のさらなる展開が楽しみです。

おわりに ～2025年度に向けて「家」だからこそできることを～

2024年の厚生労働省調査(1月29日発表)によると、小中高校生の自殺者数が527名と過去最多になりました。自ら命を絶つ子どもたちを一人でも救うために、私たちのできることは何か?そのことを常に胸において研修支援や教育事業に取り組むことが新年度の大きな課題です。敵は「孤独」です。そのために当施設がどう「サードプレイス」機能を発揮していくのか?職員とともに追求していきたいと考えています。

(所長 北見 靖直)

目次

□えがおプロジェクト リフレッシュ事業

リフレッシュ GW キャンプ①②	1
リフレッシュ内灘キャンプ①	3
リフレッシュ内灘キャンプ②	4
リフレッシュサマーキャンプ①	5
リフレッシュサマーキャンプ②	7
リフレッシュ爽秋キャンプ①②	9
リフレッシュ輪島キャンプ	11
リフレッシュ晩秋キャンプ①	12
リフレッシュ晩秋キャンプ②	13

□全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 in 能登（公募型）	14
羽咋高校地域探究トライアルキャンプ（学校型）	17
能登ステージ 高校生交流会	20

□地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

ファミリーキャンプ	22
Smile Festival in NOTO	24

□羽咋市教育委員会 連携事業

HAKUI キッズイングリッシュキャンプ	25
ヒノビィと一緒に 通学合宿～仲間と一緒に生活習慣と学習習慣を身に付けよう～	35

□ボランティア養成・ボランティア自主企画事業

のとボラ養成セミナー	37
のともキッズ 2024～バンブーフェスティバル～	39

□参考資料

令和6年度 能登青少年交流の家 利用状況



国立能登青少年交流の家
マスコットキャラクター
「ヒノビィファミリー」

「リフレッシュ GWキャンプ」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・明るい希望に満ちた新年度のスタートから1カ月が経ち、新たな不安を抱える児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気づき、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 ①令和6年4月27日(土)～29日(月・祝)
 ②令和6年5月3日(金・祝)～5日(日・祝) いずれも2泊3日
- (2) 参加者 小学2年生～中学1年生 45名
- (3) 活動内容

1日目 能登⇒立山		2日目 立山	
8:30	受付：輪島市・バス発 能登町の穴水町着	6:00	起床、清掃
9:30	※七尾・中能登・志賀・羽咋・宝達志水は保護者送迎で現地集合	7:00	朝のつどい
10:30	受付：七尾・中能登・志賀・羽咋・宝達志水	7:30	朝食
11:00	バス着 能登町 出合いのつどい・OR 仲間づくり NO SHOW	8:30	活動準備・説明
12:30	昼食	9:00	来拝山登山 (昼食は弁当)
13:30	のびのびタイム	13:30	この指とまれ！タイム
15:00	バス発(能登～立山)	15:00	夕食(野外炊事)
18:00	バス着	18:30	みんなで焚火を囲み、 星空を見上げよう！
18:10	TATEYAMA オープニング・OR	20:00	入浴
18:30	夕食	21:00	就寝準備
19:30	へやづくりタイム	21:30	就寝
20:00	入浴&ほっこりタイム		
21:00	就寝準備		
21:30	就寝		
3日目 立山⇒能登			
6:00	起床、清掃		
7:00	朝のつどい		
7:30	朝食		
9:00	宿舎確認		
9:15	バス発(立山～能登)		
12:15	バス着		
12:30	昼食		
13:30	能登プログラム思い出づくり		
15:00	バス発 能登町の穴水町着		
	※七尾・中能登・志賀・羽咋・宝達志水は保護者送迎で解散		
16:30	バス着 ※輪島市・穴水町解散		
17:30	バス着 ※珠洲市・能登町解散		

3 成果と課題

- (1) アンケート結果からの成果
- ① 事業の満足度は、45名中44名が「楽しかった」、1名が「やや楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
 - ② 参加者全員が、能登での「遊びやクラフト」、立山での「野外炊事や登山」のプログラムにおいて、楽しむことができたという肯定的な意見であった。
 - ③ 「みんなで協力して楽しむことができた」「山登りで声を掛け合うことが楽しかった」「ドッジボール等いろいろな遊びができて楽しかった」など初めて出会った仲間との関わりことの良さや、日常的な遊びができる喜びを感じていた。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① リフレッシュ春キャンプの落選者を対象としたキャンプであった。「春キャンプで落選したから案内が届いた時はうれしかった」という声を聞き、春キャンプの落選者の心を救う事業となった。
- ② リフレッシュを目的とした事業であるため、フリータイムを設けるなどの余裕をもったプログラムの立案することができた。実際に活動間における隙間の時間で自由に遊ぶことができた
- ③ 立山～能登の移動の時間に3時間を要した。バスレクリエーションではバス前方の参加者は楽しむことができたが、後方の参加者にはレクリエーションの内容がうまく伝わらず、楽しむことができなかった。
- ④ ボランティアスタッフの人数が多かった。(第1クール12名、第2クール7名、応援職員2名)各班に2～3名が付くことで、手厚く参加者をフォローすることができた。一方でボランティアスタッフからは多すぎて、「自分がどのような場面でサポートしたらよかったのか戸惑った」という意見もあった。



「リフレッシュ のとキャンプ(内灘町)～第1クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わりに近づき、リフレッシュできる長期休業前に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気づき、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 令和6年6月29日(土)～30日(日) 1泊2日
- (2) 参加者 小学2年生～中学1年生 23名
- (3) 活動内容

1日目【6月29日(土)】	2日目【6月30日(日)】
9:30 受付	6:00 起床・清掃
10:00 出会いのつどい 仲間づくり (NOTO ジョイフレンド)	7:00 朝のつどい
11:45 昼食 食堂	7:40 朝食 食堂
12:45 みんなのへやづくりタイム	9:00 NOTO どきどきタイム 運動遊び(講堂) 水遊び(プール)
14:00 NOTO わくわくタイム ① マイフォークづくり ② 野外炊事	12:00 昼食(弁当)
19:30 入浴	13:00 フリータイム
20:30 ほっこりタイム(焚火タイム)	14:00 入浴
22:00 就寝準備・就寝	15:00 振り返り
	16:00 またねの会 解散

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、23人中21人が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 野外炊事で焼きそばや豚汁をみんなで協力して作ったこと、焚火体験でマシュマロを焼いて食べたこと、フリータイムで好きな遊びができたことなど、様々な活動を通して、「友達がたくさんできた」「初めて会った人と仲良くなれた」という声が多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 基本的な班を編成したが、活動プログラムのほとんどは班を解体して実施した。全体として、班のつながりよりも参加者全員のつながりが強くなるキャンプとなった。班の活動をもう少し充実する必要もあったと考える。
- ② 2日目は、海での活動を計画していたが、荒天のため所内のプールで水遊びを実施した。児童はライフジャケットを着用したが、入水した低学年児童の中には、足が付かない児童がおり、不安感から十分に楽しむことができなかつた様子もあった。



「リフレッシュ のとキャンプ(内灘町)～第2クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わりに近づき、リフレッシュできる長期休業前に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする

2 日程

- (1) 期 日 令和6年7月6日(土)～7日(日) 1泊2日
- (2) 参加者 小学1年生～中学1年生 20名
- (3) 活動内容

1日目【7月6日(土)】	2日目【7月7日(日)】
9:30 受付	6:00 起床・清掃
10:00 出合いのつどい 仲間作り(NOTO ジョイフレンド)	7:00 朝の集い
11:45 昼食 食堂	7:20 朝食 食堂
12:45 みんなのへやづくりタイム	9:00 NOTO どきどきタイム 海辺散策(柴垣海岸)
14:00 NOTO わくわくタイム ① ウッドコースター作り ② 野外炊事	水遊び(プール)
19:30 入浴	12:00 昼食(弁当)
20:30 ほっこりタイム(焚火タイム)	13:00 フリータイム
22:00 就寝準備・就寝	14:00 入浴
	15:00 振り返り
	16:00 またねの会 解散

3 成果と課題

- (1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)
 - ① 事業の満足度は、20人中17人が「とても楽しかった」、3名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
 - ② 野外炊事の最後に感想を発表したが、子どもたちの中からは「みんなで協力したから美味しくできた」という声が多く聞かれた。活動中も積極的に片付けをしたり、掃除をしたりする姿も見られ、子どもたちの仲が深まった活動でもあった。
- (2) 事業を通しての成果と課題
 - ① 低学年が多いため、班の活動を中心にプログラムを展開した。その際、高学年はリーダーシップを図っていた。自由時間は、班の仲間だけでなく、他の班メンバーとも一緒に遊ぶ姿が見られた。事業に応じて、臨機応変に対応していくことが大事であると感じた。
 - ② ボランティアリーダーが10名参加してくれた。ほとんどのリーダーが事業におけるキャンプが初めてであった。事前に事業内容等について話をしたが、対応方法等の伝達が不十分であったと感じる。彼らの経験値を上げていくことが今後の課題である。



「リフレッシュ サマーキャンプ(奥能登地区)～第1クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わり、リフレッシュできる長期休業中に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 令和6年8月3日(土)～6日(火) 3泊4日
- (2) 参加者 小学1年生～中学1年生 50名
- (3) 活動内容

1日目【8月3日(土)】			2日目【8月4日(日)】		
9:00	能都中学校 輪島ふらっと訪夢	Aバス発(能都中学校→到着) Bバス発(輪島ふらっと訪夢)	6:00	宿舎	起床、清掃
11:00	玄関ロビー	バス着(能登半島) Nの杖着	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
11:00	講堂	出会の集い・OR Nの杖着	7:15	食堂	朝食
12:30	食堂	昼食	8:30		活動準備
13:30	活動	NOTO チャレンジタイム	9:00	柴垣海岸 館内	NOTO どきどきタイム 昼食(弁当)
17:00	かんぼ広場	タベの集い	16:00	浴室	入浴
17:45	食堂	夕食	17:00	かんぼ広場	ゆうべのつどい
18:45	体育館	NOTO のびのびタイム	17:30	食堂	夕食
20:00	浴室	入浴	18:30	体育館	NOTO のびのびタイム
21:00	宿泊部屋	翌日準備	19:30	体育館	NOTO わくわくタイム
22:00	宿舎	就寝準備・就寝	20:30	浴室	入浴
			21:30	宿泊部屋	翌日準備
			22:00	宿舎	就寝準備・就寝
3日目【8月5日(月)】			4日目【8月6日(火)】		
6:00	宿舎	起床、清掃	6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	かんぼ広場	朝のつどい	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
7:15	食堂	朝食	7:40	食堂	朝食
9:00	キャンプサイト 体育館	テントづくりタイム(晴) のびのびタイム(雨)	8:40	宿舎	テントサイト片付け
10:30	ふれあいの広場	NOTO わくわくタイム 創作活動	9:00	テントサイト(晴)	宿舎点検
12:00	食堂	昼食	9:30	研修室	NOTO メモリアルタイム
13:00	野外	NOTO わくわくタイム 野外活動	12:00	食堂	昼食
15:00	ふれあい広場	NOTO クッキングタイム 野外炊飯	13:00	講堂	振り返りタイム
20:00		NOTO 焚火タイム	13:30	講堂	またねの会
21:00	浴室	入浴	14:00	玄関ロビー	Aバス発(能登半島) Nの杖着
21:30	宿舎	就寝準備・就寝	15:20		Bバス発(→能都中学校)
			16:00		Aバス(Nの杖着) Aバス(輪島ふらっと) Bバス(能都中学校)

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果（振り返りシートより）

- ① 事業の満足度は、46人中44人が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 海での活動では、サップと磯遊びをした。全ての参加者が初めてサップで、「何度も海に落ちたけど練習したら上手にサップを操ることができた。」「友達と一緒にサップの上に立つことができた。」と海の活動を満喫し、楽しかったという感想を述べていた。
- ③ 野外炊事ではカレーバイキングを実施した。「みんなで協力したから美味しくできた」という声が多く聞かれた。活動中も積極的に片付けをしたり、掃除をしたりする姿も見られ、子どもたちの仲が深まった活動でもあった。様々な活動をみんなで協力して取り組んだことで「みんなの名前を覚えた」「友達がたくさん作ることができた」という感想も多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① ボランティア14名の参加があり、1班に2名ずつの体制を組むことができた。熱中症対策、活動における安全管理など多くのスタッフの目できめ細かく看取ることができた。また、ボランティアには看護学校の高校生5名がいたこともあり、海でのクラゲに刺された後の対処や、熱中症の予防につながる水分補給や休憩の仕方等、他のボランティアと共有を図りながら安全に活動を進めることができた。
- ② フードハント(オリエンテーリング)の活動では、野外において気温が高い中での活動となった。十分な休憩を取りながら活動をしたが、小学校低学年の児童にとっては、長い距離を歩く活動となり、体力的に厳しいコース設定となった。当日の天候や参加者の体力を十分に把握して、より安全で効果のある活動を考える必要があったと感じる。



「リフレッシュ サマーキャンプ(中能登地区)～第2クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった 1 学期が終わり、リフレッシュできる長期休業中に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

(1) 期 日 令和6年8月23日(金)～25日(日) 2泊3日

(2) 参加者 小学1年生～中学2年生 59名

(3) 活動内容

1 日目【8月23日(金)】			2 日目【8月24日(土)】		
9:30	玄関ロビー	受付:	6:00	宿舎	起床、清掃
10:00	講堂	出合いのつどい・OR	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
	活動別	仲間づくり	7:20	食堂	朝食
12:00	食堂	昼食	9:00	柴垣海岸	NOTO どきどきタイム
13:30	活動別	NOTO わくわくタイム	12:00		昼食(弁当)
17:00	プレホール	タベのつどい	17:30	かんぼ広場	ゆうべのつどい
18:00	食堂	夕食	19:00	食堂	夕食
19:30	宿舎	へやづくりタイム	20:30	第1営火場	NOTO 焚火タイム
20:00	浴室	入浴&ほっこりタイム	21:00	浴室	入浴
21:30	宿舎	就寝準備・就寝	21:30	宿舎	就寝準備・就寝
3 日目【8月25日(日)】					
6:00	宿舎	起床、清掃			
7:00	かんぼ広場	朝のつどい			
7:20	食堂	朝食			
9:00	宿舎	宿舎点検			
9:30	活動別	NOTO チャレンジタイム			
12:00	食堂	昼食			
13:30	研修室	NOTO メモリアルタイム			
15:30	講堂	振り返りタイム			
16:00	大研修室	SummerCamp クロージング			
16:30	玄関	解散			

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ①事業の満足度は、59人中56人が「とても楽しかった」、3名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ②海での活動では、サップと磯遊びをした。全ての参加者が初めてのサップで、「立てるようになったり、波に乗ったりするのが楽しかった」「また、サップをしたい」「サップを教えてくれたおじちゃんが優しくて面白かった」と海の活動を満喫していた。また、磯遊びでは、「海でしましま模様の魚を見られてうれしかった」「海でも楽しい活動ができることが分かった」という感想を述べていた。
- ③野外炊事ではカレーバイキングを実施した。「カレーの作り方を知らなかったけど、キャンプで知れたので良かった」「カレーにはヤングコーンとキャベツとかと合うと知った」「みんなで協力して取り組むと物事が早く進んだ」という声が多く聞かれた。
- ④その他では、「リフレッシュサマーキャンプで分かったことは、やっぱり協力が大事だと分かった」「最初は同じ班の子としゃべれなかったけど、しゃべりかけてくれたり、仲良くしてくれたりしたから、みんなで協力して楽しめたのでまた行きたい」など、子どもたちの仲が深まった活動でもあった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① ボランティア 13 名の参加があり、1 班に 1~2 名ずつの体制を組むことができた。熱中症対策、活動における安全管理など多くのスタッフの目できめ細かく看取ることができた。また、他のリフレッシュキャンプに参加した経験豊富なボランティアも参加しており、児童に対して 1 人でも上手く接し、班員をまとめることができた。
- ② フードハント(オリエンテーリング)の活動では、前回の反省を生かし、活動場所を縮小し、所内の外周コースのみで行った。野外において気温が高い中での活動となったが、4か所を巡った後に冷房の効いた講堂へ戻り、体を休めてから再度再開するなど、十分な休憩を取りながら活動をした。当日の天候や参加者の体力を十分に把握して、より安全で効果のある活動を考える必要があったと感じる。
- ③ 2日目の海辺の活動(午前・午後)では、午前は波が高く、雨も降る予報であったため、急遽、館内オリエンテーリングに振り替えた。午後は天候が落ち着き、バスに乗って柴垣海岸へ出向いた。磯遊び、サップ体験を1時間交代で実施した。「物足りない」という児童もいたが、低学年の児童にはちょうどよい海辺の活動となった。
- ④ 2泊3日の活動のため、慌ただしい予定となった。他の班の児童と遊ぶ自由時間(バスケットボール、将棋などの自由遊び)を設けることで、子ども同士の交流がもっと深まった可能性がある。



「リフレッシュのとキャンプ～中能登地区～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気づき、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 ①令和6年9月28日(土)～29日(日) 1泊2日 20名
 ②令和6年10月5日(土)～6日(日) 1泊2日 23名
- (2) 参加者 小学1年生～小学6年生
- (3) 活動内容

1日目		2日目	
10:00	出合いのつどい・OR 仲間づくり NO START	6:00	起床、清掃
12:00	昼食	7:00	朝のつどい
13:30	砂像体験(柴垣海岸)※徒歩で移動	7:30	朝食
17:00	夕べのつどい	9:00	野外炊事
17:30	夕食	13:00	フリータイム
19:00	焚火	14:00	振り返り
20:30	入浴	15:00	解散
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果

- ① 事業の満足度は、43名中42名が「楽しかった」、1名が「やや楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 「みんなと仲良く助け合って活動できたのが嬉しかった」「初めての友達でも1日過ごせば仲良くなると思った」「また参加しようと思った」など、初めて出会った仲間との関わりことの良さや、砂像づくり体験や野外炊事での仲間と協力しながら1つのことを作り上げる達成感を味わうことができた。
- ③ 参加者が野外炊事時に、「みんな協力して作ったからこそ、苦手な野菜を食べたい」と挑戦して食べている姿が見られた。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① リフレッシュサマーキャンプの落選者を対象としたキャンプであった。「また来たい」「もう1泊したい」という声が多く、サマーキャンプの落選者の心を救う事業となった。リフレッシュを目的とした事業であるため、フリータイムを設けるなどの余裕をもったプログラムの立案をすることができた。実際に活動間における隙間の時間で自由に遊ぶことができた。
- ② アイスブレイクではボランティアスタッフが活躍できる場を作ったことで、参加者とボランティアがすぐに打ち解けることができた。初めてキャンプに参加するボランティアスタッフには、ボランティア歴が長いスタッフとペアを組み、各班に2名付くことで、手厚く参加者をフォローすることができた。

4 事業の様子



【砂像づくり】



【野外炊事（焼きそば・豚汁・餃子）】



【たき火体験】



【自由遊び】



【振り返り】

「リフレッシュ のとキャンプ(輪島市)」

1 趣旨

令和6年能登半島地震により、被災した輪島市の児童に、自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに心身ともにリフレッシュする機会とする。1泊2日のキャンプで出会う仲間と過ごし、自己の成長に繋げる契機とする。

2 日程

- (1) 期 日 令和6年10月24日(木)~25日(日) 1泊2日
- (2) 参加者 輪島市6小学校6年生 73名 引率教諭 7名
- (3) 活動内容

1日目			2日目		
8:30		学校出発	6:00	宿舎	起床、清掃
10:30		バス着・受付	7:00	広場/講堂	朝のつどい
10:45	講堂	入所式・OR NOTO ジョイフレンド	7:30	食堂	朝食
11:50	食堂	昼食・休憩	8:40	宿舎	宿舎点検
13:30	柴垣海岸 池・プール	サイクリング&砂像 カヌー	9:00	第1炊事棟	火起こし体験 野外炊事(カレーライス)
16:30		活動終了・着替え等	13:00	講堂	思い出タイム
17:00	広場/講堂	夕べのつどい	13:30		交流の家出発
17:30	食堂	夕食・ベッドメイキング	15:30		学校到着
19:15	かんぼ広場	焚火タイム			
20:00	浴室	入浴			
21:00	第8研修室	振り返り			
21:30		就寝準備・就寝			



3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(事後アンケートより)

- ① 事業の満足度は、73人中69人が「とても楽しかった」、4名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 「みんなと協力することができた」「2日間たくさん笑った」という声が多くあり、有意義な2日間を過ごすことができた。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 被災により輪島市内の6校が2学期より合同で学校生活をしており、仲間作りがとても重要であった。事業説明会も行い、全体のめあて等を決めキャンプに取り組むことができた。
- ② 学校教諭とも役割の連携を図り、プログラムを実施することができた。
- ③ 能登半島の学校では、被災により宿泊体験ができない学校が多くある。それらの学校へ今回のようなキャンプを提案していくことも教育施設の役割であるように感じる。



「リフレッシュ のとキャンプ(奥能登・晩秋)～第1クール」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった夏休みも終わり、学校生活にも慣れてきた中で児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 令和6年10月26日(土)～27日(日) 1泊2日
- (2) 参加者 小学1年生～小学5年生 32名
- (3) 活動内容

1日目【10月26日(土)】	2日目【10月27日(日)】
9:00 バス出発(ふらっと訪夢・能都中)	6:00 起床・清掃
11:00 バス到着	7:00 朝のつどい
11:00 出合いのつどい 仲間作り(NOTO ジョイフレンド)	7:20 朝食 食堂
12:30 昼食 食堂	8:40 宿舎点検
13:30 みんなのへやづくりタイム	9:30 NOTO クッキングタイム (なべ・ご飯作り)
14:30 NOTO ぼうけんタイム(なべハントゲーム)	13:00 NOTO メモリアルタイム(コースター)
17:00 タベのつどい	14:30 振り返り またねの会
17:30 夕食 食堂	15:00 バス出発
19:00 ほっこりタイム(焚火タイム)	JA 穴水～ふらっと訪夢 着 解散
20:00 入浴	能都中学校 着 解散
21:00 就寝準備・就寝	

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、32人中30人が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 班の仲間と協力して鍋作りの具材カードを探したこと、野外炊事でかまどに火をともし続けたこと、鍋の具材を協力して切ったこと、焚火体験でマシュマロなどを焼いて食べたこと、フリータイムで好きな遊びができたことなど、様々な活動を通して、「友達がたくさんできた」「初めて会った人と仲良くなれた」という声が多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 班編成を活かして活動プログラムのほとんどを展開した。遊びを決めたり、鍋のスープを相談したり、冒険タイムの順路を話し合ったりと、活動が進むにつれ、班のまとまりが充実していった。また、適宜フリータイムを設けることで、班の垣根を超えた関わりを生むことにもつながった。法人ボランティアによる企画を入れたことも良かった。
- ② 1日目の焚火タイムでは、水分を欲する児童が多く、水分補給の確認をスタッフで共有した。持ち物には明記したが、初めから水分補給が十分でない参加者がいた。事前の周知だけでなく、直前にも周知したり、さらにきめ細やかに健康観察をする必要がある。



「リフレッシュ のとキャンプ(奥能登・晩秋)～第2クール」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった夏休みも終わり、学校生活にも慣れてきた中で児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 令和6年11月16日(土)～17日(日) 1泊2日
- (2) 参加者 小学2年生～中学1年生 25名
- (3) 活動内容

1日目【11月16日(土)】	2日目【11月17日(日)】
9:00 バス出発(ふらっと訪夢・能都中)	6:00 起床・清掃
11:00 バス到着	7:00 朝のつどい
11:00 出合いのつどい 仲間作り(NOTO ジョイフレンド)	7:20 朝食 食堂
12:30 昼食 食堂	8:40 宿舎点検
13:30 みんなのへやづくりタイム	9:00 NOTO フリータイム
14:00 具材選びタイム	10:00 NOTO サイエンスタイム
14:30 NOTO クッキングタイム (なべ・ご飯作り)	12:00 昼食
19:00 NOTO 焚火タイム	13:00 NOTO メモリアルタイム(コースター)
20:00 入浴	14:30 振り返り またねの会
21:00 振り返り	15:00 バス出発 JA 穴水～ふらっと訪夢 着 解散
21:30 就寝準備・就寝	能都中学校 着 解散

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、25人中24人が「とても楽しかった」、1名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 班の仲間と協力して鍋を作ったこと、新聞紙でごはんを炊いたこと、焚火体験でウイナー等を焼いて食べたこと、フリータイムで好きな遊びができたこと等、様々な活動を通して「友達が増えた」「みんなと楽しく協力することができた」という声が多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① あすなる(施設内にある離れの一軒家)で寝食を共にするプログラムを展開した。ベットメイキングや鍋づくりなど、班を超えた関わりがあり、一つの家族のようなまとまりが生まれた。
- ② NOTO ジョイフレンドや NOTO フリータイムでは法人ボランティアが主導となる仲間作りプログラムを展開した。ボランティアが自分達でプログラムを展開することで事業への満足感を高めることができた。
- ③ バス移動で嘔吐する参加者がいた。嘔吐物処理セットを常備しておらず、素早く対応することができなかった。移動等に関わる事前準備を複数の人で確認する必要がある。



「オリエンテーション合宿 in 能登チャレンジ」

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組を段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

1 趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。

2 日程等

(1) 期 日 令和6年7月13日(土)～7月14日(日) 1泊2日
令和6年7月21日(日) 日帰り

(2) 参加者 石川県立鶴来高等学校 第2学年 3名 第3学年 2名
石川県立小松商業高等学校 第3学年 1名
鵬学園高等学校 第1学年 2名 合計 8名

(3) 講師及び研修内容

① 講師

[講話「あなたが考える地域づくり 地域の課題とは」]

羽咋市地域包括ケア推進室 社会福祉士 谷 智美 氏

[フィールドワーク①・②]

小規模多機能型居宅介護たきのーほーむ風和里 羽咋高齢事業部長 森川 みなこ 氏

千里浜地区生活支援協議体「サロンおっちゃん家」代表 富山 一夫 氏

[講義・演習②]

一般社団法人まるオフィス 中高生の学びのチームコーディネーター

気仙沼学びの産官学コンソーシアムコーディネーター 社会教育士 三浦 亜美 氏

[ガイダンス、講義・演習①、③④、発表①②]

酒井 伸大(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

魚川 友康(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)



② 研修内容（カリキュラム）

分野	No.	科目名	月/日	時間	探究のプロセス	主な活動内容	活動場所
導入	1	ガイダンス①ー1	7/13	9:00-9:50	-	地域探究プログラムの内容・スケジュール等の確認。	交流の家第5研修室
		ガイダンス①ー2		10:00-10:50	-	各々の探究の目的、期待する自己の変容の確認と共有。	交流の家第5研修室
	2	講話 「地域づくりの実践」	7/13	11:00-11:50	課題発見	「地域づくりの実践」の講話を聴き、今後の活動に向けて意欲を高める。	たきのーほーむ風和里
		フィールドワーク①ー1 「地域の魅力発見」		12:00-14:50		FWを通して、地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。 (仲間づくり・生きがいづくり)	
	3	講義・演習① 「地域理解」	7/13	15:00-15:50	課題発見	情報マップ作りを通して、FW①の調査内容の全体像を把握する。	交流の家第5研修室
	探究のプロセスの実践	4	講義・演習②ー1, 3 「課題解決の基礎」	7/13	16:00-16:50 19:00-20:50	課題の設定	FWを通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。
5		講義・演習②ー2 「課題解決の基礎」	7/13	17:00-17:50	課題の設定	対話を通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。	交流の家第5研修室
6		フィールドワーク② 「地域課題の探究」	7/14	9:00-11:50	情報の収集	講師との意見交換や別の取組の調査を通して、より有効な解決策を考える。	たきのーほーむ風和里 おっちゃん家
7		講義・演習③ 「地域課題の探究」	7/14	13:00-15:50	整理・分析 まとめ	調査内容や問題点の解決策をポスターに整理し、まとめる。	交流の家第5研修室
8		発表①	7/14	16:00-16:50	表現	作成したポスターを用いて、ポスターセッションを行う。	交流の家第5研修室
地域課題の取組	9	講義・演習④ー1, 2 「行動計画の基礎」	7/21	10:00-13:50 昼食含む	課題の設定	実践活動での行動計画を作成する。	交流の家第5研修室
	10	発表②	7/21	14:00-14:50	表現	今後の実践活動の行動計画を発表する。	交流の家第5研修室
	11	実践活動のためのガイダンス	7/21	15:00-15:50	-	実践活動上の安全管理や社会のルール・マナーを理解する。	交流の家第5研修室

③ フィールドワーク概要

小規模多機能型居宅介護たきのーほーむ風和里 羽咋高齢事業部長 森川 みなこ 氏
千里浜地区生活支援協議体「サロンおっちゃん家」代表 富山 一夫 氏

地域の高齢者福祉の現状や課題について、その魅力や情報を知り、自分事と捉えた目線で考え、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

3 成果と課題

本事業に参加した8名の生徒から、今回のオリエンテーション合宿での学びについての振り返りをしてもらった。

(1) フィールドワークでの学びについて(生徒の感想・記述より抜粋)

- ・限界集落に近づいていることを見通し、集える場があることで町全体が活性化するのだとサロンに参加して肌で感じる事ができた。
- ・高齢者福祉についての願いや想いをお聞きし、福祉や介護に対するイメージが変わったし、ひとりひとりの生きがいを大切にすることは、自分が感じている地域課題にも共通していると気付いた。



【トークセッションの様子】

(2) 生徒のオリエンテーション合宿の学びにおける成果と課題

(生徒からの聞き取り)

① 成果

- ・他校でグループを作り、異なる地域課題や取組について議論を交わしたことで、自分の考えが深まる意見をもらえたり、これまでの自分にはない新しい考えに出会ったりすることができた。
- ・課題から解決策まで筋の通ったプレゼンテーション、まとめ方、聞き手を意識した話し方は大切だと分かった。
- ・学校でクラブやグループで探究していることに、生かすことができる見方・考え方、プレゼンテーションスキルを学んだ。



【情報マップ作り】

② 課題

- ・自分の考えに自信を持ったり、考えをまとめたりする力をつける必要があることを痛感した。
- ・話す内容はまとめてから発表したが、補足が多くなり、伝えたいことがずれてしまった。
- ・もう少し積極的に質問したり感想を言ったりできるようにしたい。



【発表・質疑応答】

(3) 運営面における成果と課題

① 成果

- ・募集に当たって、石川県内の複数の学校を訪問した。結果的には3つの学校から参加者が募り、OR合宿を実施することができた。また、当日は、加賀地区の高校の先生2名が生徒とともに、OR合宿に参加し、本事業についての理解を深めていただくことができた。
- ・事業全体に対する満足度は100%であり、「多様な見方・考え方に気付くことができた」「まとめ・表現する力が伸びた」という声が多く聞かれた。
- ・自らの地域課題を見つけ、解決したいという意思があるかを申込フォームで尋ねたうえで参加を承認した。そのためテーマが福祉であっても「自分だったら」と自分ごととして考える生徒が多く、担当者としても生徒の実態や考えの変容を見取ることができた。

② 課題

- ・テーマが福祉に関する内容であり、身近で自分事として考えやすかった反面、自分の地域課題と行き来しながら思考するには、展開の工夫がさらに必要だった。
- ・様々な立場の講師の考えを聞く素晴らしい機会だったが、助言をもらうあまり、その分自分の考えを持つ、まとめる時間が不足していった。講師と綿密な打合せが必要である。

「羽咋高校 地域探究トライアルキャンプ」

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組を段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

1 趣旨

羽咋高校第1学年生徒が、羽咋市を中心とする地域社会づくりや地域が抱える課題解決などに関するフィールドワークを通して、問題発見・解決能力の基礎を身に付け、今後の探究活動に活かすとともに、地域や社会の将来を担う人材の育成を図ることを目的とする。

2 実施日・参加人数

(1) 期 日

- ①令和6年7月22日(月)～7月23日(火) 1泊2日 ・羽咋高校1.2組 72名
 ②令和6年7月22日(水)～7月25日(木) 1泊2日 ・羽咋高校3.4組 74名

(2) 研修内容及び講師

・幸福観想コース	たきのーほーむ風和里 羽咋高齢事業部長兼管理者	森川 みなこ 氏
・自然共生コース	羽咋市役所総務部まちづくり課長 国際朱鷺保護交流館館長	崎田 智之 氏 村本 義雄 氏
・文化伝承コース	羽咋市歴史民俗資料館学芸員 菅池獅子舞保存会 はくい獅子舞保存活性化実行委員会	中野 知幸 氏 横山 孝信 氏 諏訪 雄士 氏
・環境新創コース	羽咋郡市広域圏事務組合 農家レストランむろたに	池田 希望 氏 室谷 加代子 氏
・交流創出コース	羽咋市役所総務課まちづくり課係長	松岡 正樹 氏
・健康躍動コース	石川県立看護大学教授	垣花 涉 氏
・歴史国宝コース	金沢学院大学名誉教授 金沢工業大学教授 妙成寺執事	東四柳 史明 氏 山崎 幹泰 氏 大森 教生 氏
・防災減災コース	石川県防災活動アドバイザー	松井 喜憲 氏



【幸福観想コース】



【自然共生コース】



【文化伝承コース】



【環境新創コース】



【交流創出コース】



【健康躍動コース】



【歴史国宝コース】



【防災減災コース】

(3) 日程

時 間	7月22日(月)、7月24日(水)	時 間	7月23日(火)、7月25日(木)
8:15 8:25	学校集合 学校出発	6:00 6:30 7:00 7:30 8:30	起床・洗面・着替え 清掃 朝のつどい(かんぽ広場) 朝食 部屋点検
9:00 ~9:30	開講式 (日程及びFW先の確認等) ※荷物移動等も含む	9:00 ~11:50	フィールドワーク② 「地域課題の探究」
10:00 ~14:30	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	12:00	<昼 食>
15:00 ~15:50	講義・演習① 「地域理解」	13:00 ~13:50 14:00 ~14:50	講義・演習③ 「行動計画の基礎」 ※発表資料作成
16:00 ~16:50		15:00 ~15:50 16:00 ~16:50	発表① (グループ発表)
17:00 17:30	タベのつどい (かんぽ広場) 入所OR(施設の使い方)	17:00 ~17:50	閉講式 実践活動のためのガイダンス
18:00	<夕食> ベッドメイク・休憩	18:00 18:20	バス乗車 帰校 解散
19:00 ~19:50 20:00 ~20:50	講義・演習② 「課題解決の基礎」		
21:00 22:00 22:30	入浴 就寝準備 消灯・就寝		

(4) フィールドワーク概要

- ・幸福観想コース 風和里の取組についての聞き取り、地域の高齢者の現状についての話を聞く。
風和里利用高齢者及び地域の高齢者と交流する。
- ・自然共生コース 邑知潟の生息する外来生物を採取・調査し、邑知潟の実態を知る。
駆除ではなく、外来生物とともに生きる方法を考える。
- ・文化伝承コース 羽咋市の獅子舞文化及び獅子舞保存活性化実行委員会の取組を聞く。
羽咋市歴史民俗資料館および深江八幡神社を見学する。
羽咋市の菅池地区の獅子舞の現状を知る。
- ・環境新創コース クリンクルはくい・第2埋立処分場の見学と質疑
エコクッキングで郷土料理を学ぶ。
羽咋市のごみ行政についてトークセッションする。
- ・交流創出コース 羽咋市をはじめに過疎化が進む能登において、賑わいの創出により暮らしを繋げる取組について聞く。
関連施設の見学、地元商店街の事業者との交流を通して現状を知る。
- ・健康躍動コース 健康の意味について話を聞いたり、フィールドワークを通して考えたりする。
- ・歴史国宝コース 妙成寺見学と国宝認可への取組を聞く。
- ・防災減災コース 能登半島地震を受けて、今後同様の災害に対し、柔軟に対応していくまちづくりについて考える。
関連施設の見学、地域の町内会長等との交流を通して課題や現状を知る。

3 成果と課題

本事業に参加した生徒から、事業での学び等について事後アンケートを行った。

(1) トライアルキャンプでの学びについて(生徒の記述より一部抜粋)

- ・実際に現地に言って地震の被害を見てみるとその問題について身近に捉えることができ、自分達には何ができるか等を考えることができた。
- ・現在の状況や問題点を、しっかりと自分で把握して問題解決に向かって自分で解決方法を、考えることがとても大切だとよくわかりました。正解のない課題について考えることは難しいけど、自分の意見を答えとして出すことが出来るのがとてもいいなと思いました。
- ・町おこしの大変さがわかった。市民だけではなく、商工業者などの幅広い人のニーズに答えることの難しさや、予算をどう使うなど簡単に行かないことがたくさんあった。少しずつ良くなるように努力する姿勢を大切にしていきたい。

(2) 今後取組みたいことについて(生徒の記述より一部抜粋)

- ・今回のトライアルキャンプを通してまだ自分の町の獅子舞のことなどを詳しく知れていないことに気づいたので 自分の町についてもっと知り、文化を伝承するために何が出来るかを考えていこうと思いました。
- ・地域の課題を解決するために、自らボランティア活動などに地域の一員であることを自覚しながら取り組んでいきたい。
- ・羽咋市の抱える課題を実際に考えた解決策で試して、そこからまた課題を見つけ羽咋市をまたより良くしていきたい。

(3) 事業における成果と課題

① 成果

- ・令和5年度から羽咋高校校長及び担当教諭との連携を密にし、時期や内容を検討した。生徒の実りある学習になるようフィールドワーク・講義は1泊2日で実施する等、高校の意向に合わせた事業運営(FW先の選定、講義・演習の職員研修等)を行うことができた。

② 課題

- ・バス2台と公用車2台でのFW先へ移動した。天候などにより活動内容が変更するコースもあったため移動に関わる交通手段の調整が必要となった。来年度に向けてフィールドワークの活動内容(雨天対応)を計画し、円滑に実施することができるようになりたい。

「能登ステージ高校生交流会」

1 趣 旨

地域探究プログラムオリエンテーション合宿での学びを深めるとともに、他校の高校生同士が交流し、互いに刺激し合うことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付けるきっかけとする。また、同年代の仲間を増やすことで、多様な価値観に触れ、人としての在り方を考えるなど、新たな価値を創造する高校生の育成を目的とする。

2 日 程 等

(1) 期 日 令和6年12月7日(土)～12月8日(日) 1泊2日

(2) 参加者 石川県立鶴来高等学校 第2学年 3名
石川県立羽咋高等学校 第1学年 2名 合計 5名

(3) 講 師

恩田 雅博(国立能登青少年交流の家 主任企画指導専門職)

酒井 伸大(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

魚川 友康(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

(4) 日程及び研修内容

12月7日(土)		12月8日(日)	
13:00～13:30	集合・受付	6:00～7:00	起床、清掃
13:30～14:00	能登ステージ開会式	7:00～7:20	朝のつどい
14:00～15:30	発表スキル向上講座① ～私、こんなことを考えています～	7:20～8:00	朝食(食堂) 宿舎点検・荷物移動
15:30～16:00	休憩・ベッドメイキング	9:00～11:00	発表スキル向上講座③ ～昨日より今日の私～
16:00～17:30	夕食作り(鍋作り)	11:00～13:00	昼食作り(カレー作り)
17:30～19:00	夕食・片付け・休憩	13:00～13:30	昼食・片付け
19:00～21:00	発表スキル向上講座② ～カタリバ探究車座トーク～	14:00～	振り返り
21:00～22:00	入浴		閉講式・解散
22:00～	就寝準備・就寝		

① 発表スキル向上講座①～私、こんなことを考えています～

参加者が自ら取り組んでいる探究活動を発表する。また、昨年度、地方ステージに出場した先輩の発表を視聴し、よりよい効果的な発表について考える。

② 夕食作り(鍋作り)

限られたお金で材料を購入する。また、役割を分担し、限られた時間の中で鍋を作る。

- ③ 発表スキル向上講座②～カタリバ探究車座トーク～
観点別 S-T 分析を活用し、参加者が各々の発表を分析する。発表の内容の偏り等を視覚的に捉え、相手に効果的に伝える内容を検討し、改善する。
- ④ 発表スキル向上講座③～昨日より今日の私～
前日に学んだことを生かして、発表原稿を作成する。また、発表後は、参加者が互いの発表について、良い点及び改善点を伝え合う。
- ⑤ 昼食作り(カレー作り)
限られたお金で材料を購入する。また、役割を分担し、限られた時間の中でカレーを作る。

3 成果と課題

本事業に参加した5名の生徒から、能登ステージでの学びについて振り返った。

(1) 発表スキル向上講座での学びについて(生徒の感想・記述より)

- ・自分の発表の改善点を知ることができた。1回目と2回目では、発表内容の変化の大きさを実感することができた。
- ・探究活動は今まで自校で見比べていたけど、他校の人から意見をもらうことができて、とても貴重な機会だと思った。
- ・他の人の発表を聞いたり、たくさんのアドバイスをもらったりして、自分の成長を感じることができた。
- ・発表に関するアドバイスをもらい、資料の作成が進んだ。



【講座③発表原稿修正活動】

(2) 食事作り等の交流について(生徒の感想・記述より)

- ・他校の人との仲が深まったし、何より楽しかった。
- ・買い物や食事作りでみんなと仲良くなることができた。
- ・食材を自分たちで相談しながら買うことや、野菜の切り方を話し合っ
て鍋を作ることは初めての体験だった。
- ・みんなで役割分担してご飯を作ることは楽しかったし、みんなで力を
合わせて作った料理はとてもおいしかった。



【食事作り：カレー】

(3) 運営面における成果と課題

①成果

- ・参加者が5名で少人数であったこともあり、一人一人に寄り添いながら、的確な指導や助言をすることができた。
- ・地方ステージを見通して参加した生徒が、発表スキル向上という視点でモチベーションをもって取り組み、発表用原稿の大枠を作成することができた。
- ・買い物や食事作りなどの活動が参加者同士の距離を縮めた。料理を作り際には参加者同士で会話が多
くうまれたため相互の交流を深めることができた。

②課題

- ・探究活動の発表においては、探究活動の実践活動が少ない場合は、現状や課題などの発表内容が多
くなる。探究活動においては、「実践」から見える自分の考えを再構成したり、見出したりすることができ
るよう実践の場面での助言をしていく必要があった。

「ファミリーで美しい能登の海へ!ヨットセーリングキャンプ」

1 趣旨

- ・ヨットの基礎知識や技能を学び、ヨットの操縦を体験することで能登の海に親しむ。
- ・海での活動を通して、自然体験に関心を持つきっかけを与える。
- ・家族と一緒に体験活動をするこゝで、親子の絆を深めるとともに協働性を高める。

2 日程

- (1) 期日 令和6年9月7日(土)～8日(日) 1泊2日
 (2) 参加者 小学3年生以上の児童を含む家族 7家族25名
 (3) 活動内容

9月7日(土)		9月8日(日)	
8:30～8:50	集合・受付	6:00～7:00	起床、清掃
8:50～9:30	滝港マリーナへ移動・はじめの会	7:00～7:20	朝のつどい
9:30～12:00	ヨット体験	7:20～8:00	朝食(食堂)
12:00～13:30	昼食(注文弁当)・休憩	8:00～9:00	宿舎点検・荷物移動
13:30～16:00	海遊び(滝港海岸広場)	9:00～13:00	野外炊事「夏野菜カレー作り」
16:00～16:30	交流の家へ移動	13:00～13:30	2日間の振り返り・おわりの会
16:30～17:45	入室・入浴	13:30～	解散
17:45～19:00	夕食(食堂)・休憩		
19:00～21:00	マイ Spoon 作り・花火		
21:00～	就寝準備・消灯		

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(おわりの会前に家族毎に記入)

- ① 事業の満足度は、参加した7家族すべてが「とても楽しかった」と回答し、事業全体は高い評価を得ることができた。
- ② ヨット・海遊びの感想では、「初めてヨットに乗って楽しかった」「かじを取るのが一番楽しかった」という記述が多く見られた。また、「高校生たちが優しく教えてくれた」「いろいろな人と関わって仲良くなれた」という記述もあり、普段できないヨットの操縦に加え、高校生との交流も参加者にとって良い経験になったことが分かる。
- ③ マイ Spoon 作りの感想では、「自分だけの Spoon を作れてうれしかった」「(子どもが)初めて彫刻刀を使ったが集中して取り組んでいた」という記述が見られた。一方で、低学年の子どもがいる家族から「妹はノコギリが使えなくて残念だった」という意見があった。刃物を使う回数が多かったため、低学年には難しい活動となってしまったと考えられる。
- ④ 野外炊事の感想では、「火をおこすところからするのが楽しい」「鉄鍋で炊きあがったご飯がとてもおいしかった」という記述があった。家庭では使用しない薪や鉄鍋での調理に、親子で楽しそうに取り組む姿が見られた。
- ⑤ キャンプを通しての子どもの変化については、「自分からお手伝いをしていて、しっかり者で驚いた」「野菜を家で食べないのに、自分たちで作ったカレーをおいしそうに食べていた」「娘が家族の中で1人だけ女子だったため、今回初めて1人で入浴したが、無事に出来て成長を感じた」という記述が見られた。いつもと異なる生活環境で過ごしたことが子どもの成長に繋がり、保護者も子どもの新たな一面に気づくことができたため、家族にとって有意義な時間となった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 1日目の海活動では、熱中症等になった際の休憩場所として滝港マリーナ管理棟の会議室を想定していた。会議室には冷房がついていないため、体を冷やせるよう保冷剤や飲料、救急セット等を準備した。また、午後の海遊びの際は海岸広場の駐車場に公用車を常駐させ、すぐに対応できるよう努めた。今回は体調不良者も出ず無事に活動を終えることができたが、次年度以降も熱中症対策を徹底して活動に臨む必要がある。
- ② 夜は、ふれあいの広場でマイスプーン作りを実施したが、照明だけでは暗く、製作に時間がかかってしまった。安全には十分配慮して作業を進めたが、研修室で行う等の工夫が必要であった。
- ③ 今年度はボランティアの応募がなく、職員のみで対応した。保護者の人数も多かったため事業運営に大きな支障はなかったが、写真撮影や活動準備・片付け等が少し手薄になってしまった。今回、ボランティアへの事業周知はメール配信のみだったが、今後は学生にとって身近なツールである SNS 等でも募集案内を行い、ボランティアの獲得につなげたい。

4 事業の様子



「Smile Festival in NOTO」～最幸の笑顔を～

1 事業の概要

(1)趣 旨 来場される能登の方が笑顔で過ごす日になることを目的として実施する。イベントでは、様々なブースでの体験を通して、自分の手で作る喜びや体を動かす楽しさなどを感じ、豊かな心情を育てる。また、参加者が主体的に活動に取り組める工夫をし、本事業で体験したことを私生活などに活かす一助とし、体験活動への理解を深める。

(2)期 日 令和6年10月19日(土)

(3)参加者 来場者数 554名 ブース等出展者数 140名 計 696名

(4)協力団体【ステージ発表団体】

羽咋 Jr リズムダンス、羽咋高校軽音楽部、羽咋ジュニア吹奏楽団

【飲食ブース】

中村屋、壺焼き芋青空、サンライズドーナツ、カフェ珈琲ボランチ号
地域おこし協力隊、焼き処のりちゃん、愛知ネット、夢生民、風和里

【体験ブース】

北陸モバイルプラネタリウム、絵本専門士トライアングル、etc.works
バルーンぶんちゃん、サイエンスラボ、砺波青少年自然の家、田鶴浜高校
羽咋ドローンズ、立山青少年自然の家、若狭湾青少年自然の家
乗鞍青少年交流の家

2 参加者の声（事後アンケートより）

- ・子どもたちも時間いっぱい遊んで、いろいろな体験をしていました。楽しそうでした。
- ・多彩な内容で親も楽しむことができました。飲食場所が多いのもよかったです。
- ・キャンプで一緒に過ごした仲間に会えてよかったです。

3 イベントの様子



「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

1 趣旨

仲間との英語を用いた体験活動を通して、楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。また、安心できる温かい環境の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力の育成を図る。これらのことが自信となり、日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつながることをねらいとする。

2 日程・内容

(1) 期日・参加者等 ※複数校で、5・6年生に分かれて合計 4 回実施

	期日	参加校	児童	国際交流員・ALT	ボランティア
第1回	5月27日(月)・28日(火)	羽咋小・邑知小 (6年生)	62・20名	6・2名	0名
第2回	6月3日(月)・4日(火)	粟ノ保小・瑞穂小 西北台小(6年生)	16・29・7名	4・2名	1名
第3回	6月10日(月)・11日(火)	粟ノ保小・瑞穂小 西北台小(5年生)	18・30・19名	7・2名	0名
第4回	6月25日(火)・26日(水)	羽咋小・邑知小 (5年生)	69・35名	4・2名	0名

(2) 活動内容

<5年生>

1日目		2日目	
10:00	Opening ceremony【1時間】 Staff Introduction (スタッフ紹介) School Introduction (学校紹介)	6:30	起床 洗面 掃除
11:00	アイスブレイク【1時間】 「仲間と共にNOTOジョイフレンド」	7:00	朝のつどい
		7:30	朝食(食堂)
		8:30	宿舎点検
12:00	昼食(食堂)	9:00	「野外炊事で世界を味わう」 【4時間】 《Presenting Recipes》
13:00	「世界で遊ぼう」【3.5時間】 《Enjoy the game!》	13:30	振り返り
16:30	荷物移動	14:00	Closing ceremony
17:00	夕べのつどい	14:30	帰路
17:30	夕食(食堂)		
18:45	「現地の食材を買い物しよう」 【1.5時間】 《Shopping Games》	17:30	入浴
20:30	入浴	18:30	夕食
21:30	就寝準備	19:45	「現地の食材を買い物しよう」 《Shopping Games》
22:00	就寝	21:30	就寝準備
		22:00	就寝

第4回のみ、研修;支援団体との調整のため、上記日程で実施

<6年生>

1日目		2日目	
10:00	Opening ceremony【1時間】 Staff Introduction (スタッフ紹介) School Introduction (学校紹介)	6:30	起床 洗面 掃除
11:00	アイスブレイク【1時間】 「仲間と共に NOTO ジョイフレンド」	7:00	朝のつどい
		7:30	朝食(食堂)
		8:30	宿舎点検
12:00	昼食(食堂)	9:00	「野外炊事で世界を味わう」 【4時間】《Presenting Recipes》
13:00	「現地の食材を探しに世界へ」 【3.5時間】 《Entry to a country check》	13:30	振り返り
16:30	荷物移動	14:00	Closing ceremony
17:00	夕べのつどい	14:30	帰路
17:30	夕食(食堂)		
18:45	「世界で遊ぼう」【1.5時間】 《Become a game master!》		
20:30	入浴		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

1日目

○Opening Ceremony/Staff Introduction/School Introduction (5・6年生共通)

児童が英語を使って司会を行うとともに、号令や児童代表によるあいさつも、日頃の授業で使っている表現を用いて対話的に行った。スタッフの自己紹介後、主担当からイングリッシュキャンプの3つのキーワード「自分から」「仲間と協力」「英語で表現」の大切さを伝え、どんなイングリッシュキャンプにしたいか、どんな力をつけてほしいかを共有した。学校紹介では、Smile, Clear Voice, Big Voice を心掛け、内容が伝わるように Gesture をつけ、Eye Contact で相手意識を持ってプレゼンする姿が圧巻だった。スライド等趣向を凝らした学校紹介だった。聞き放してではなく、児童が「自分から」質問したり、回答したりする等対話的な場面が多く見られた。



○アイスブレイク「仲間と共に NOTO ジョイフレンド」(English Version) (5・6年生共通)

今年度から、活動プログラムで導入している仲間づくり活動「NOTO ジョイフレンド」を、English Version にアレンジして実施した。英語でアウトプットしながら身体表現する点、仲間と声を合わせたり、動きを合わせたりする点で他校の児童との距離がぐっと縮まった。英語を使って仲間づくりをするという活動は有効であった。

野外炊事をするために、3つのキーワードのもと、ストーリー性のある活動の展開を示したことは、班の仲間と協力する必要



感を生み、英語で表現することへのチャレンジを促す仕掛けになっていた。

○Activity1-1 「現地の食材を探しに世界へ～Entry to a country check～」(6年生)

野外炊事の食材や調理器具等を買いに世界へ出かけるという設定で、国際交流員等が入国審査員になったり、店の店員になったりして、入国チェックしたり、ドルで販売したりした。買い物では、英語で表現できるように、買い物前に交渉や表現を班で練習したり、ゲームやライティングを通してアウトプットしたりした。国際交流員とのコミュニケーションから、児童は各国の観光名所や食べ物を聞きとり、さらに質問を重ねて、外国の文化について理解を深めようとしていた。

○Activity1-2 「世界で遊ぼう ～Become a game master!～」(6年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。事前に国際交流員から3文程度のルール説明を準備してもらった。そのうえで、班の代表児童が、国際交流員から、体験するゲームの遊び方を聞き取り、内容を自分のチームに遊び方を説明することができた。「英語で表現」を意識し、聞き取った英語を使って説明する姿が多く見られた。また、班の仲間と作戦を立てたり、相談したりして、ミッションをクリアするにはどうすればよいのか、考えながら活動を展開することができた。

○Activity1-1 「世界で遊ぼう ～Enjoy the game!～」(5年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。事前に国際交流員から3文程度のルール説明を準備してもらった。そのうえで、班のメンバーが、国際交流員から、体験するゲームの遊び方を聞き取るとともに、体験を通して遊び方を理解していった。理解した遊びを他のメンバーに伝えて、遊びを展開することができた。「英語で表現」を意識し、聞き取った英語を使って説明する姿が多く見られた。班で歌う英語の歌を決め、遊びのルールの中で位置づけるなど、主体的に活動することができた。

○Activity1-2 「現地の食材を買い物しよう～Shopping Games～」(5年生)

野外炊事の食材や調理器具等を買いに、国際交流員が開く店に行き、英語や動作を使って買い物した。買い物では、英語で表現できるように、買い物前に交渉や表現を班で練習したり、ゲームを通してアウトプットしたりした。児童は、各国の観光名所や食べ物について、国際交流員から聞きとり、外国の文化について理解を深めようという姿が見られた。

2日目

○Activity1-3 「野外炊事で世界を味わう～Presenting Recipes～」(5・6年生共通)

野外炊事「バターチキンカレーライス」を作るために、「かまど係」「お米係」「野菜係」に分かれて調理した。全体説明では、職員が「Cut」「Put on」「Set fire」といった簡単な英語を用いて手順を説明したり、「How many?」のような既習表現、「Please check～」「Please lend me～」といった未習表現を示したりした。班ごとに国際交流員についてもらい、手順や表現で困ったら英語で尋ねるということを確認して活動を展開した。どの班も班で協力しながら、できるだけ英語を使って作るという意識が高かった。また、国際交流員の国の食文化について、スライドや動画、写真等で聞き取り、質問していた。



○Closing Ceremony(5・6年生共通)

児童が英語を用いて司会を行った。参加者、国際交流員等で振り返りを行い、お互いに感想を伝え合った。主担当から伝えたイングリッシュキャンプのキーワード「自分から」「仲間と協力」「英語で表現」について、振り返ることができた。「楽しかった」「英語で表現できた」という感想の他、「世界へ出かけて自分の力を試してみたい」「英語の授業では、自分から英語で話せるようになりたい」等自己成長を願う感想も聞かれた。



(3) 事業の実施にあたって

<他団体との連携>

①羽咋市教育委員会

平成31年3月より連携協定を結んでおり、本事業の内容等について前年度中に協議検討を行っている。今年度は、昨年度に引き続き、能力別活動及び他校との交流を行いたいとの要望を受けて、複数校で小学6年生と5年生に分かれて実施した。実施にあたり、市内小中学校に勤務するALT等と打ち合わせを行い、ねらい達成に向けた助言・協力をいただいた。

②実施小学校

今年度は、主担当者が、打ち合わせ日時と場所を各校担当者と調整し、対面で打合せを行うことができた。各担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュール等について確認した。また、活動プログラムの詳細は、各学校の実態や要望を取り入れながら決めた。セレモニーの司会やつどいの旗係、班分けや係決め等は、学校間の先生同士で相談してもらった。事前交流学习や当日出会った後等、ねらい達成につながる、より効果的な場面で決めることができた。

昨年度から導入している、タブレット端末を用いた「使って欲しい英語表現」の事前課題を、今年度も実施した。回答にかかる反応率が得点化されるため、楽しみながら取り組んでいた。91.6%の児童が「事前課題は有効だった」と回答した。昨年度に引き続き、90%を超えており、効果が見込まれている。学校の先生方からはワード文書でアンケートをまとめていただき、児童には、タブレット端末を使って事前・事後アンケートの回答を得た。

③石川県国際交流協会(研究協力者:石津みなと)

児童が体験活動を通して、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする展開の工夫について、オンライン相談を複数実施した。特に、安心して活動に取り組む環境や自分の考えや気持ちを英語で表現しやすくなる工夫について、専門家の視点からアドバイスをいただいた。第2回および第4回では、現地を視察され、直接アドバイスをいただいた。

<2日間を通じた活動の工夫>

①使ってほしい英語表現

昨年度から導入したPC 端末による事前課題。「使ってほしい英語の表現15」は、今年度から5・6年生共通の課題とした。今年度は、「自分から英語で表現」をねらいに据えたため、「How do you say~in English?」を特に使ってほしい英語の表現と位置づけ、折に触れ、取り上げた。参加児童に対してとったアンケートでは、「事前学習は有効か」という設問に対し、2年連続で90%超となった。また、複数回取り組んだ児童は 75%超となり、手だての有効性と継続性が認められる。



また、今年度は、英語専科教員と連携し、野外炊事では、5・6年生共通で Please check~.と Please lend me~.を、敬語を学んできている6年生には、Would you~?(丁寧)、Could you~?(許可)を取り上げ、どんな場面で使えるのか具体的に知らせた。体験を通して使う場を設定したことにより、失敗を恐れず自信を持って使ってみようしていた。

「自分から英語で表現できたか」という設問に対し、肯定回答をした児童のうち、85%が「出入国あるいは買い物・異文化理解」の場面で、また 60%近くが「野外炊事」の場面で、自分から英語を使って表現できたと回答した。いずれも昨年度比15%の伸びである。この結果から、実感を伴ったスキルアップに手ごたえを感じていることが伺える。



②自分から英語で尋ねたくなるワークシート、みんなで歌いたくなる英語曲リスト

児童用しおりの巻末には、世界地図を基に、国際交流員の国のあいさつや称賛、承認、励ましの言葉などを尋ねて埋めるワークシートを添付した。How do you say ~in English?と尋ね、どんどんワークシートに書き込んでいった。各国のあいさつの違いや発音、日本との共通点に気づききっかけとなっていた。また、学校の英語の授業で歌っている英語の曲リストを提示した。世界の遊びをする際に、班全員で歌う曲を決め、仲間と同じ曲を歌いながら世界の遊びを心ゆくまで楽しんでいた。



③ストーリー性があり、主体的に活動したくなるプログラムの展開

2日間を通して、児童一人一人が自分から英語で表現すること、仲間と協力してバターチキンカレーライスを作るために、数々のミッションをクリアすることに、意欲と見通しを持てるプログラムとした。導入では、iPadのiMovieを使ったPVを視聴することで、初めて参加する5年生も意欲と見通しを持つことができた。野外炊事をするために、食材を買う(各国ブース)、買うためには入国する(入国審査)、入国するためにはドル紙幣を得る(ミッション)といったひと流れはシンプルで分かりやすかった。「世界であそぼう」では、3文程度のルールを聞き取って、仲間に伝えるとともに、国際交流員等から教えてもらった世界の遊びを一緒に楽しんだ。どの活動でも意欲的に活動する児童の姿が見られた。また、課題を解決する場面では、相談したり、アドバイスし合ったりする姿もたくさん見られた。



④一人一人が自信を持って会話をするために

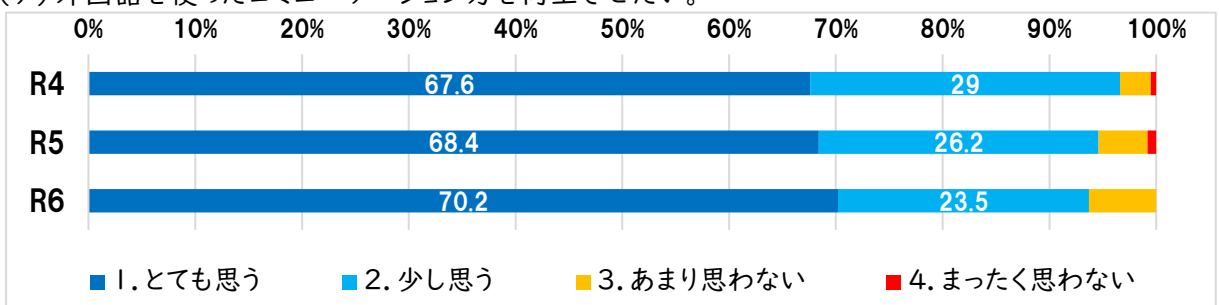
一人一人が国際交流員等と直接会話できる場を確保するために活動内容の工夫をした。「現地の食材を探しに世界へ」「現地の食材を買い物しよう」では、買い物場面を想定し、買い物をする前に、ペアで練習をしたり、カルタやWhat's this?クイズ等をして、英語表現や単語に慣れ親しんだ。そのため、自信を持って買い物をすることができた。Missionでは、「Saying the same, doing the difference.」「When is your birthday?」等仲間内で自己表出できるしかけを随所に入れることで、仲間とのつながりを生み、協力してこそクリアできるようにした。「Entry to a country check」や「Shopping Game」では、出入国審査や買い物を1人やペアで行った。初めは不安な様子の児童も見られたが、回数を重ねることで自信を持って会話する姿が見られた。各Activityで、一人5回程度は国際交流員等と1対1で会話する機会を設定することができた。「体験を通して自分から英語で表現できた」活動は野外炊事と回答した児童は44.5%だった。

3 成果と課題

(1) アンケート結果

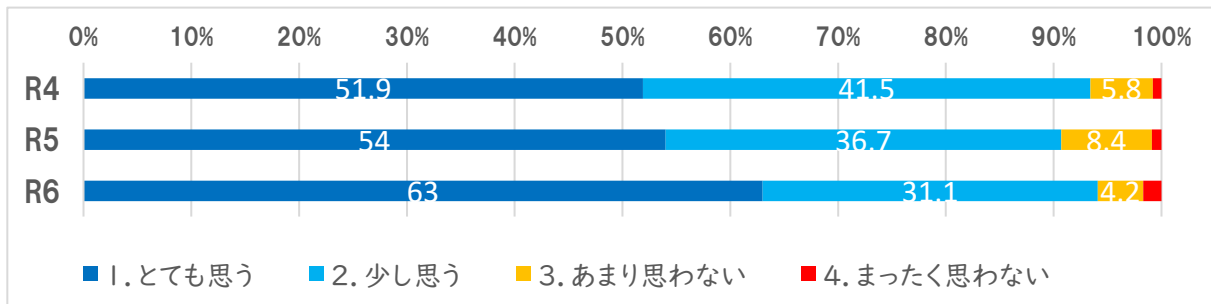
① 事業について

(ア) 外国語を使ったコミュニケーション力を向上させたい。



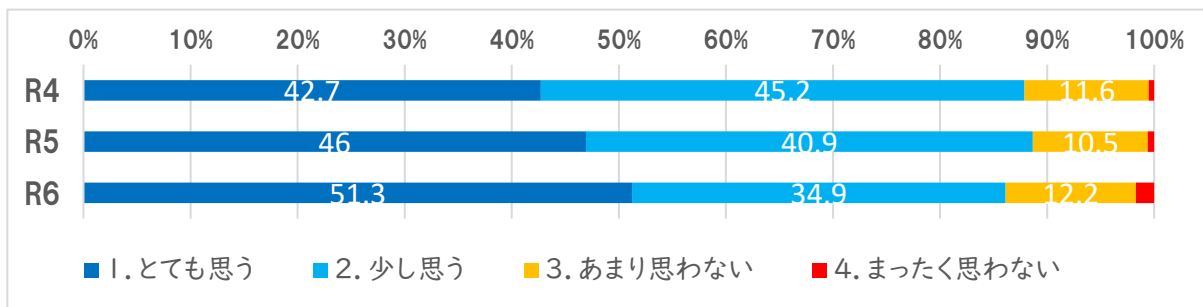
「とても思う」および「少し思う」をあわせた回答（以下 肯定回答）の割合が年々高まっている。羽咋市の5,6年生にとって、学校教育における英語力の向上と相まって、自らの英語力に磨きをかけたいと願う児童が増えてきているといえる。

(イ) 将来、社会や人の為になる仕事をしたい。



肯定回答の割合が年々高まり、本調査開始以来、「とても思う」（以下 積極的肯定回答）の割合が初めて 60%を超えた。羽咋市の5,6年生にとって、英語を使う必要感が醸成されている。英語でのコミュニケーションにより、相手を知り、必要なものを得て、したい活動が展開されていく本プログラムが、英語で自分の考えや思いを表現することを通して、地域に貢献しようとする心情を育むことにつながっている。

(ウ) 日本人として世界に貢献したい。

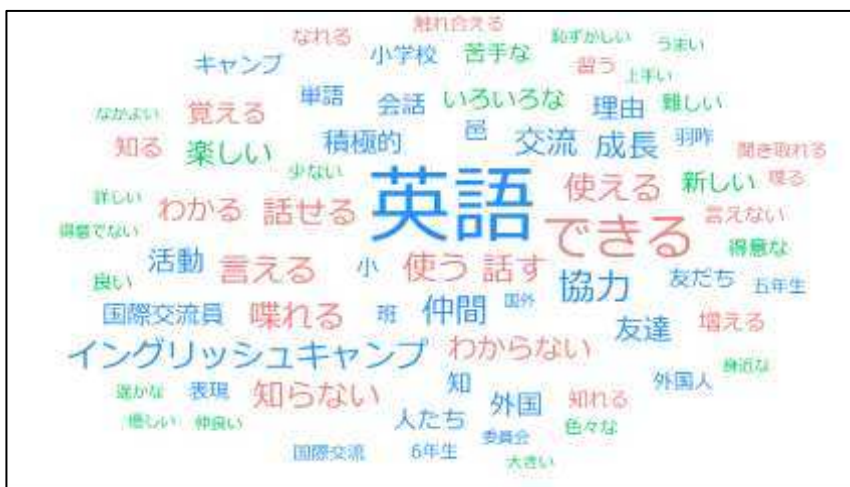


肯定回答の割合が年々高まり、本調査開始以来、積極的肯定回答の割合が初めて 50%を超えた。羽咋市の5,6年生にとって、英語表現がスキルの習得にとどまらず、世界に視野を向けて語学力を試してみたいという意欲が高まっている。また、国際交流員の国の文化を知ったことで、改めて日本人としての誇りや自覚を新たにするとともに、多様な文化を認めていこうとする態度が育まれてきているといえる。

(エ) キャンプを通して自己の成長を実感することができたか。

肯定回答の割合は 82.1%と 80%を超えた。その内訳を分析したものである。下記の表は、「テキストマイニング」という AI ローカルブラウザを使って、「自己成長」に関するすべての児童のアンケート結果の自由記述を言語処理し、頻出語や特徴語を抽出・分析したものである。

特筆すべきは、肯定回答をした児童もそうでない児童も「進んで英語を使って表現」に触れていることである。つまり、キャンプのねらいを強く意識していたことが伺える。また、「言える」「できる」「使える」「わかる」といった技能面での自己成長、「仲間との活動」「友達との協力」といった交流の面での自己成長、「苦手」「難しい」「わからない」といった困難に直面しても「楽しい」「聞き取れる」といった前向きな回答が目立った。困難な場面でも「仲間と協力し、自分から英語で表現するキャンプ」のめあてを達成するために、学びに向かっていたことが、この抽出・分析から読み取れる。



②外向き志向率、グローバル人材志向率

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、外向き志向率及びグローバル人材志向率に関するアンケートを実施した。

<外向き志向率について>

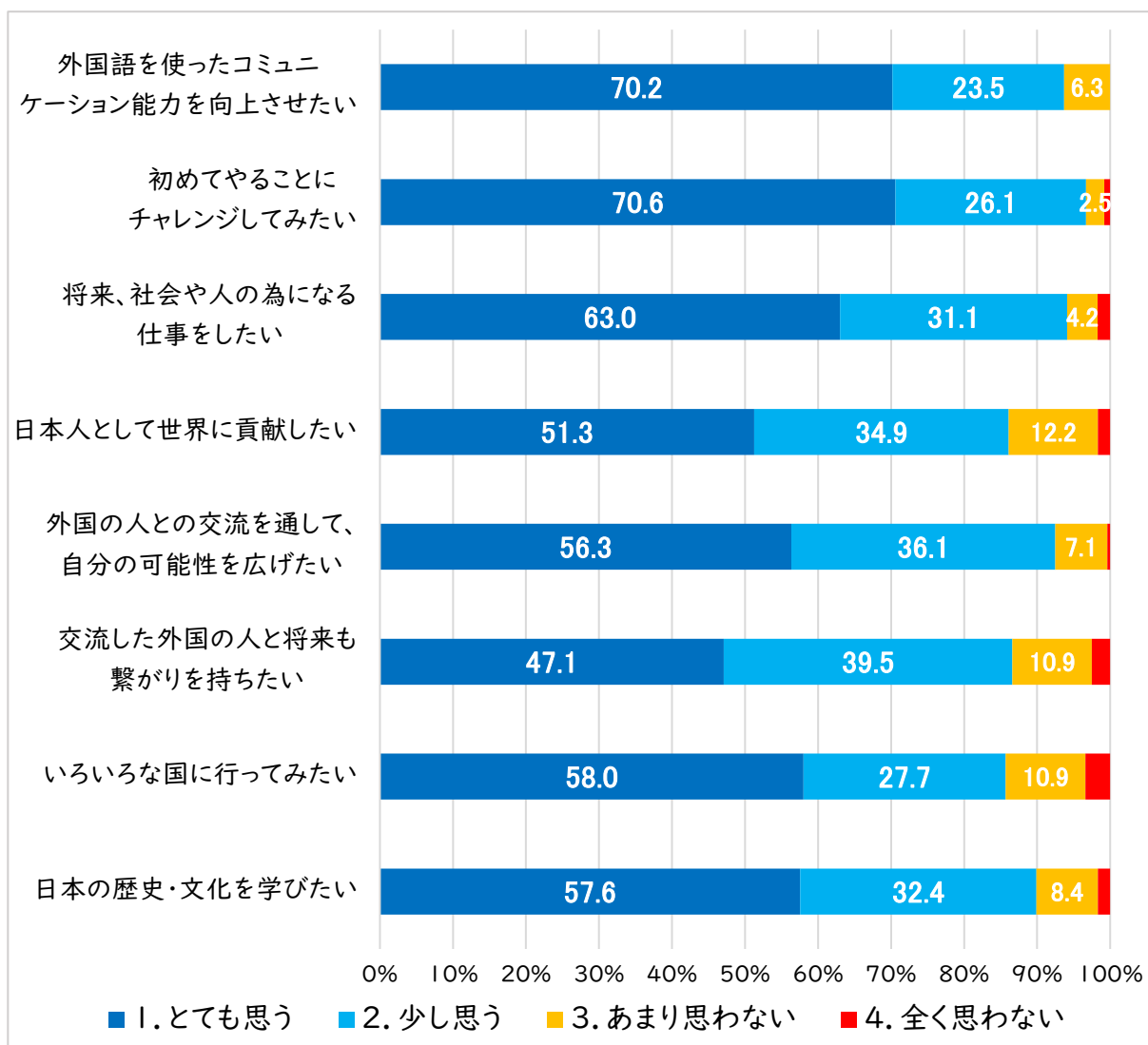
外向き志向率とは、日本人参加者に対して、文部科学省が定めた調査項目「日本人として世界に貢献したいと思いませんか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いませんか」「交流した外国人と将来も繋がりをもちたいと思いませんか」の3項目のアンケート結果を集計したものである。そのうち、肯定回答の集計から算出した本事業参加者の外向き志向率は、89%であった。(R4 88% R5 87%)

事前と事後の結果を比較すると、事前 87.8%、事後 88.5%とやや向上した。特に、「外国の人との交流を通して、自分の可能性を広げたい」の項目で、事前 95.9%、事後 96.7%とやや向上した。

<グローバル人材志向率について>

国立青少年教育振興機構では、上記の外向き志向率調査に加え、独自に語学力・コミュニケーション能力及び異文化に対する理解と日本人のアイデンティティー等を加えた8項目のアンケートを作成し、「グローバル人材志向率」として、平均80%以上の肯定的回答を得ることを目標に国際交流事業を実施している。

本事業における事業後のグローバル人材志向率は、91%であった。(R4 92%、R5 90%)
事前と事後の結果を比較すると、事前 90.6%、事後 90.8%とやや向上した。特に、「初めてやることにチャレンジしてみたい」の項目で、事前 90.2%、事後 92.4%と向上した。



③参加者の声（一部抜粋）

【全体】

- ・難しいことにチャレンジすると失敗して恥ずかしいと思っていたけど、イングリッシュキャンプで楽しく難しいことにチャレンジできました。(6年生)
- ・仲間と協力して、活動ができましたし、英語が苦手だったけど、イングリッシュキャンプを経験したことで、日ごろの英語を頑張りたいと思いました。(6年生)
- ・まだ自信を持って使えない英語があると分かったから、もっと話せるようになって、もっとコミュニケーションをとれるようにしたいです。(6年生)
- ・みんなと触れ合えてよかったし英語の発音など向上できたのでうれしかったです。次のイングリッシュキャンプではもっといろいろなところで英語を喋れるようにしたいです。(5年生)
- ・自分の仲間と一緒に協力できたのがとてもうれしかったし、班のみんながわからないことがあったら、違う班の友達が助けてくれたのが心に残りました。(6年生)
- ・邑知小の子と仲良くなれてうれしかったし、仲間と協力して「○」(まる=輪)になることが大事だとわかりました。(6年生)
- ・みんなで協力してベッドメイキングしたり遊んだり寝たり英語で話せたりして楽しかったです。(5年生)
- ・自分から積極的に英語を使って、みんなが困っているときには自分から声をかけることができたし、チームのみんなも私が困っていたら助けてくれました。チームのみんなと仲が深まってとても楽しいイングリッシュキャンプでした。このことを活かして、これからは仲間と協力してどんなことでも積極的に行動したいです。(6年生)
- ・仲間とお互い協力し合って、自分から英語を使ってコミュニケーションを取れたし、小学校最後のイングリッシュキャンプは、宿泊もできて忘れられない思い出になりました。(6年生)
- ・他の学校の人と仲を深められ、協力してミッションにチャレンジすることができました。また、中学校で同じになるので他の学校との交流を増やしたいです。(6年生)
- ・このイングリッシュキャンプで学んだ「来たときよりも美しく」や「みんなで協力する」ということを学校でも活かしていきます。(6年生)
- ・羽咋小は「貢献」「協力」を大切にしているけど、イングリッシュキャンプはすごく「協力」をしないとご飯とかいろいろなことができなくなると気付いたから、「協力」をいっぱいしました。羽咋小でもみんなと「協力」して、自分から気づいて「貢献」をしたいです。(5年生)
- ・リーダーとして周りの仲間のことを気にかけてられるようになった。(6年生)
- ・このキャンプを通して、みんなで過ごすこと(風呂や睡眠)が楽しかったです。このキャンプから「仲間」って、ぼくたちが思っているより大切なんだと気が付きました。(6年生)
- ・みんなと協力することで仲も深まったし、英語の楽しさが改めてわかりました。(5年生)
- ・It was great because I could make friends, cooperate with together, and use English. (5年生)
- ・わたしは、最初は少しだけ不安な気持ちがありました。例えば、「友達を作って一緒に楽しく遊べるかな」「英語をたくさん使うことができるかな」という不安な気持ちがありました。でも実際に参加してみたら、友達は作れたし、英語を使うこともできたし、とっても楽しかったです。特に「友達と協力するプレー」が多かったと思います。野外活動では友達と協力しておいしい「バターチキンカレー」を作りました。そのように「友達と協力するプレー」が多かったので、友達と仲良くなれたんだなと思いました。(5年生)
- ・このキャンプで英語をいっぱい使えるようになったので、今後はもっと英語で会話をしたいです。(6年生)
- ・このキャンプを通して、自分の将来の夢に近づけたなと思いました。(6年生)
- ・英語で少し喋れるようになったし、将来海外に行った時のために、英語の授業を一生懸命励みたいです。(5年生)
- ・今まで言えなかった英語が話せたので、英語への自信が持てました。次回はもっと英語をスラスラ言えるようになりたいです。(5年生)
- ・私は、このキャンプを通して羽咋小の人と仲良くなったので、こうしたキャンプを通して他の小学校の人ともしっかり仲良くなれる企画をしてほしいなと思いました。(6年生)
- ・自分で英語をどのように表現するかを考えたり、チームで協力してアクティビティをしたりすることが

できたので良かったです。また、たくさんの方に挑戦できたので、これからも挑戦を続けたいです。
(6年生)

- ・覚えた英語が増えたので嬉しかったです。いろんなことに挑戦して自分の限界を超えてみたい。
(6年生)
- ・私は英語を話すのが苦手だったけど、チームで協力して英語を読んでいると友達も増えたり、英語を好きになりました。(6年生)
- ・キャンプを通して、今のうちにたくさん英語の勉強をして、将来いろいろな国に行きたくなった。
(6年生)

【Opening Ceremony/School Introduction/Closing Ceremony(5・6年生共通)】

- ・発音を意識することはできたけど、学校紹介以外あまり英語を使わなかったから、今後はそれを頑張りたいです。(6年生)
- ・少しの英語だけど英語をしゃべれたり、あまり人前で言ったりすることができないけど、朝のつどい等前に出て言えました。後、友達もたくさん作れてうれしかったです。(5年生)

【現地の食材を探しに世界へ～Entry to a country check～(6年生)】

- ・現地に行つての食材集めなど、英語を使って協力することができました。これから、いろいろな国に行つて文化などを知りたいと思いました。(6年生)
- ・仲間と一緒に協力し合つてミッションの山を乗り越えてやつていけたし、最後の野外炊事で協力しておいしいカレーが作れてとてもうれしいです。(6年生)
- ・野外炊事では、同じ班の人たち(仲間)と一緒に、協力してバターチキンカレーを作ることができたのでこれからも仲間を大切にしていきたいと思つています。(6年生)

【現地の食材を買い物しよう～Shopping Games～(5年生)】

- ・一番楽しかったのは、英語を使って買い物をするこつです。仲間と協力することの大切さと、英語を使って買い物をするこつ楽しさを知つて、嬉しかったです。(5年生)
- ・食材探しのときには、分かる英語を積極的に使つて、食品を探しました。英語の分かる範囲が広がつたので、これからはその英語を使って会話したいです。(5年生)

【世界で遊ぼう ～Become a game master!～(6年生)】

- ・いろいろな遊びを体験できたり、チームで協力して様々な英語を知れた。(6年生)
- ・ちがう班の人とも一緒に英語の歌を歌つて遊べたり、その班と、寝る前にも交流できました。(6年生)
- ・仲間と協力し、仲間と一緒に全力でチャレンジする楽しさに気がきました。(6年生)

【世界で遊ぼう ～Enjoy the game!～(5年生)】

- ・楽しかったことは、世界で遊ぼうです。理由はみんなと協力しながらできたり、たくさんの方とたくさんの英語を話せたからです。もっと頑張りたいことは、外国人と何でも話せるようにすることです。
(5年生)
- ・世界の遊びをしながら、外国の文化を学んだので「知らなかった!面白い!!」と思つました。(5年生)

【野外炊事で世界を味わおう～Presenting Recipes～(5・6年生共通)】

- ・野外炊飯では、同じ班の人たち(仲間)と一緒に協力してバターチキンカレーを作ることができたのでこれからも仲間を大切にしていきたいと思つています。(6年生)
- ・新しい仲間とイングリッシュキャンプの野外炊事でうまくコミュニケーションを取れました。わからない英語があつたから、そのときは、知っている人に自分からもっと聞けたらなと思つました。(6年生)
- ・野外炊事での英語がとても心に残りました。今後は会話の中でも英語をもっと使いたいです。
(6年生)
- ・バターチキンカレーを作つている時に、羽咋小の知らない子から声をかけられて友達になつてうれしかったです。(5年生)
- ・野外炊事で、仲間と協力して作ることができた。仲間と何かにチャレンジしたり、全力で遊んだりする

楽しさに気づいた。これから、日常生活や学習にこのことを生かしたい。(5年生)

- ・野外炊事が一番心に残りました。焼くときに煙が目に入って痛かったけど、みんなで頑張って上手に作れました。(5年生)

【スタッフ(国際交流員・学生)との交流】

- ・わたしは、英語は苦手だけど、他の学校の友達や国際交流員の人達とたくさん話すことができたので、前よりも他の国への興味がわいてきました。(6年生)
- ・外国の方々との交流を通して、できるだけ英語を使えし、分からない単語も聞くことができた。(6年生)
- ・今まで知らなかった英語も外国人の人と触れ合ったからこそたくさん知れたし、もし外国に行くことがあったら、学んだ英語を使ってコミュニケーションをとりたいです。(6年生)
- ・いろいろな英語や国際交流員の方の国の伝統文化をたくさん知れたので良かったです。(5年生)
- ・外国のお話を聞いて興味を持ちました。またいろんな外国のお話を聞きたいです。(5年生)
- ・英語で外国人の方々と話せし、5つのルールを守ることができてよかったです。(5年生)

④引率者の声(一部抜粋)

- ・各校が自分の学校について、大勢の前で英語でプレゼンする場面はとてもよい経験だった。(6年生)
- ・自己紹介やゲーム、ミッションを通して学校同士が打ち解け合い、一気に仲を深めていた。(5年生)
- ・英語を伝えるよう工夫を凝らした活動が多く、英語を使おうとする場面がたくさん見られた。(6年生)
- ・いろいろな国の交流員の方と活動を通して関わり、多様な国の文化にふれることができた。(5年生)
- ・生活体験を通して基本的な生活のルールを身につけたり、見直したりするきっかけとなった。(5年生)

(2) 成果

- ①外向き志向率が89%、グローバル人材志向率が91%と高い数値を示していることから、本事業の活動プログラムは児童の外国語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高めるとともに、「外向き志向」向上に有効であったと言える。
- ②複数の小学校合同での実施により、体験活動を通して近隣の同じ小学生と仲が深めることができた。同様に、児童自ら、進んで英語で国際交流員へ質問するなど、主体性が育まれたと考える。
- ③能力別班編成としたことは、児童や引率者にとっても支援の具体がイメージできて良かった。学校間での事前打合せも密に実施することができた。
- ④「使ってほしい英語の表現」を各小学校で事前指導したり、タブレット端末を使って反復して取り組んだりしたことにより、「事前学習が有効か」という設問に、90%超の児童が有効であると回答した。
- ⑤ゴールイメージとプロセスに見通しを持ち、ストーリー性のある活動プログラムにしたことで、どの子ども意欲を持続させて、取り組むことができた。また、仲間と協力する場面を意図的に設けたことで、仲間意識が高まり、同僚性が育まれた。
- ⑥児童が国際交流員と1対1で会話する機会を意図的に設けたことで発言の機会が保証された。これにより、英語でのコミュニケーションに達成感を感じ、自信を持つことができたと考えられる。

(3) 課題

- ①協力団体における国際交流員の確保、決定が事業実施直前となってしまった。そのため、打合せが十分ではない国際交流員が複数名おり、当日の連携が不十分な場面があった。
- ②能力別班編成のメリットはありつつ、人間関係を重視した班編成の視点も欠かせない。能力別班編成における支援の効果について、さらに明らかにする必要がある。
- ③交流の家で行われる事業が、各学校での授業にどのような効果をもたらすのか、児童にどんな変容があるのか、学校の教員と共有し、さらに具体的に必要がある。
- ④事業の実施が該当期では、学生が休業期間ではないため、確保が例年になく厳しく、直近のボランティア養成セミナー受講者へも参加を働き掛けたが、難しかった。同様の事業を同規模で実施する際は、時期と実施内容の再考が欠かせない。

「ヒノビィと一緒に 通学合宿」
～仲間と一緒に生活習慣を身に付けよう～

1 趣旨

能登青少年交流の家での集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けさせるとともに、社会性や協調性を育てる。

2 後援・協力

羽咋市教育委員会
宝達志水町教育委員会
志賀町教育委員会
中能登町教育委員会



3 対象

小学校 3～6 年生

4 参加校・参加人数

	学校名	期間(2泊3日)	参加人数
1	志賀町立志賀小学校	10月21日(月)～23日(水)	26名
2	羽咋市立邑知小学校	10月28日(月)～30日(水)	56名
3	宝達志水町立押水第一小学校 宝達小学校・相見小学校	11月13日(水)～15日(金)	17名
4	羽咋市立瑞穂小学校	11月18日(月)～20日(水)	20名
5	中能登町立鹿西小学校 鳥屋小学校・鹿島小学校	11月20日(水)～22日(金)	74名
6	羽咋市立粟ノ保学校・西北台小学校	11月25日(月)～27日(水)	27名
7	宝達志水町立志雄小学校・樋川小学校	11月27日(水)～29日(金)	12名
8	羽咋市立羽咋小学校	12月 9日(月)～11日(水)	57名
合計			289名

5 日程

第1日目	第2日目	第3日目
	6:00 起床・身支度・清掃	6:00 起床・身支度・清掃
	6:50 朝食	6:50 朝食
	7:25 バスで登校	7:25 バスで登校
	8:00 学校生活	8:00 学校生活
	16:15 バスで下校	
17:45 受付	学習	放課後 学校から帰宅
18:00 出会いのつどい オリエンテーション	17:00 タベのつどい 交流タイム	
18:30 夕食	18:30 夕食	
19:00 学習(宿題・自学)等	19:00 学習・自由時間	
20:00 入浴	20:00 入浴	
21:00 翌日の準備	21:00 翌日の準備	
21:30 就寝	21:30 就寝	

6 成果と課題

- 事業評価アンケートでは、総合的な満足度は「楽しかった」91.2%、「やや楽しかった」6.8%となっており、肯定的評価が98%となった。多くの子どもたちが楽しみながら活動することができた。また「仲間と協力できた」「ネットやスマホが無くても快適に過ごせると気付いた」という感想が多くあった。仲間と集団生活を共にし、規則正しい生活を送り、学習に取り組み、余暇を過ごすことができたと言える。
- 最終日は登校までの時間で、施設の清掃を十分にとることができないため、前日に清掃・整理整頓を実施した。これにより、退所日は余裕を持って行動することができていた。今後は、施設での宿泊経験を活かしたり、高学年の役割をさらに明確にしたりして、リーダーシップを発揮することを期待する。

7 事業の様子

○学習の様子

下校後は、参加者全員で集中して宿題や自主学習に取り組んだ。下級生の音読を聞く上級生の姿や難しい問題に友達と挑戦する姿など、課題に対して一生懸命に取り組んでいた。



○交流タイム(タベのつどい含む)の様子

タベのつどいでは、キンボールやパイプラインで、初めて出会った班の仲間と親睦を深めた。また、実現できる遊びと場所、時間を提示し、自己決定する場を設けた。これにより、次第に学校や学年、男女関係なく声をかけ合い、遊びの輪が広がるとともに、友達と翌日の遊びの約束をする姿も見られた。



○食事の様子

夕食・朝食は、バランスのよい食事を摂るように努めていた。また、食品ロスにならないように残さずに食べる姿や苦手な物もがんばって口にしている姿が見られた。友達と一緒に食べるのが楽しいようで、たくさんの笑顔を見ることができた。後片付けでは、協力してテーブルをきれいにする姿も見られた。



○宿舎での様子

宿舎では、協力しながらベッドメイキングや掃除をした。宿舎割を縦割りにしたことで、上級生が下級生をリードして活動する姿や、下級生が上級生に対して「教えて」と分からないことを聞いたり、「ありがとう」とお礼を言ったりする姿が見られた。また、就寝時間、起床時間を守って生活しようとする意識が高く、早寝早起きの生活習慣の定着につなげることができた。



ボランティア養成事業
「のとボラ養成セミナー」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。

2 日程

(1) 期 日 令和6年5月25日(土)～26日(日) 1泊2日

(2) 参加者 大学生59名(男性13名、女性46名)、高校生4名(男性1名、女性3名)

(3) 研修内容

5月25日(土)		5月26日(日)	
9:00	受付	6:00	起床
9:30	開講式		身辺整理、清掃
9:45	講義「青少年教育施設の現状と運営」 兼アイスブレイク	7:00	朝のつどい
11:00	講義「青少年教育」	7:20	朝食
12:40	昼食	8:40	宿舎点検
13:30	講義・実習「安全に活動するために～ 救急救命法～(安全管理)」	9:00	講義「ボランティア活動の意義」
16:45	実習「初めての野外炊事(ボランティア 活動の技術)」	10:45	能登事業紹介(青少年教育施設にお けるボランティア活動)
20:45	交流タイム(青少年教育施設における ボランティア活動)		ボランティア制度の説明(青少年教育 施設におけるボランティア活動)
21:30	入浴	12:00	昼食
22:30	就寝	13:00	閉講式
		13:30	解散

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

- ①救急救命法では、羽咋郡市広域圏事務組合消防本部から8名の指導者を派遣していただき、全ての活動班に一人ずつ指導者を配置することができた。心臓マッサージやAEDの実習時間を十分に取り、全員で実施することができた。
- ②「ボランティア活動の技術」では野外炊事を行った。活動前に、実際の指導時での安全管理を考えてもらい、ボランティアとして事業に参加したことを想定して、参加者が意見交換をしながら実施することができた。

(2) アンケート結果について

- ①教育事業アンケートの満足度(「満足」の評価)は、「事業全体」「事業プログラム内容」「職員の指導・助言」の3項目において100%の高評価であった。その中で、「とても満足」の最高評価は3項目全て90%を超えた。「オンラインでの講義運営」についての「とても満足」の評価は46%であり、「満足」が51%、「やや不満」が3%であった。
- ②アンケートの記述には「子どもたちの初めての体験に寄り添うことができるボランティアになりたい」「野外活動には人と関わり、仲を深める力があることが分かった」「野外活動では自分から動く自立のきっかけとなる力が身につく」という感想があった。宿泊をしながら、野外活動に取り組むプログラムには肯定的な意見が多く寄せられた。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・今年度の広報では、大学へ出向等して直接広報に力を入れた。教育学専攻がある金沢大学と金沢学院大学では講義のはじめに時間をいただき、教育学部の1、2年生全員にチラシの配布と内容の説明をすることができた。また県内の6つの大学(石川県立看護大学、金沢大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、北陸大学、北陸学院大学)には、全学生に事業案内文をメール配信していただいた。高校生への広報は、羽咋市以北の8つの高校にチラシの配布を依頼した。結果、高校生から4名、大学生から74名の応募があった。
- ・「事業を知った理由・方法」をアンケートで調査した結果、「講義での直接広報」が37名、「友人の紹介」が14名、「メール」が5名であり、直接呼びかけることが最も効果的であると分かった。
- ・「青少年教育」と「ボランティア活動の意義」では、オンラインで若狭湾青少年自然の家と会場をつなぎ講義を実施した。ボランティアに興味のある受講生同士の交流を図ることができた。

② 課題

- ・オンラインでの講義は、電波状況が悪く聞こえにくい時があった。アンケートからは、「話を聞く時間が長く感じた」「画面の向こうの様子が分かりにくかった」という回答があった。通信環境を整えていく必要がある。
- ・高校生の参加者を今後増やしていくことが必要である。次年度に向けての検討事項であるが、チラシを配布するだけでなく、直接広報する場を増やす必要がある。

4 事業の様子



【講義の様子】



【救急救命講習】



【野外炊事】



【アイスブレイク】



【集合写真】

令和6年度 大学生のためのボランティア活動推進事業
自主企画事業支援プロジェクト

「のともキッズ2024 ～バンブーフエスティバル～」

1 趣旨

仲間意識が芽生え始める小学3,4年生が体験を共にし、他者や自分を知ることによって子どもたちなりの“仲間”意識を作り出す。また、非日常の体験を楽しみ、かけがえのない思い出を仲間と作り上げることで、自分の自信にする。

2 日程

(1) 期 日:令和6年11月3日(日)～4日(月・祝)

(2) 参加者:小学3年生15名(男子9名、女子6名)、小学4年生13名(男子6名、女子7名)
ボランティア12名

(3) 研修内容

11月3日(日)	11月4日(月・祝)
9:30 受付	6:00 起床・洗面・清掃
10:00 出合いのつどい アイスブレイク	7:00 朝のつどい
12:00 昼食(食堂)	7:20 朝食(食堂)
13:00 竹クラフトづくり	9:00 野外炊事
17:00 タベのつどい	14:00 ふりかえり
17:30 夕食(食堂)	15:00 解散
19:00 キャンプファイヤー	
20:30 入浴・シャワー	
22:00 消灯・就寝	

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

- ①アイスブレイクでは、ボランティアの学生が全員で交代しながら指導をした。参加者の年齢や属性に配慮した活動を行い、グループの仲間意識の芽生えに寄与した。
- ②竹クラフトづくりでは、和紙と竹を使用してランタンを作成した。事前に用意した作り方の説明書を利用し、子どもたち自身で考えながら、主体的に作成することができた。班によっては、完成する時間にばらつきが生じ、乾燥時間が不足することもあった。
- ③野外炊事では竹を利用してバウムクーヘンを作成した。生地を焼く際は、竹を回す・生地をかける・火の調整をする、などの作業を分担して行った。班ごとに役割分担をしてから活動に取り組んだ。

(2) アンケート結果について

- ①教育事業アンケートの満足度（「満足」の評価）は、「事業全体」「事業プログラム内容」の項目において100%の高評価であった。「次回も参加したいか」という問いに関しても、「そう思う」以上の高評価が100%であった。
- ②アンケートの記述には「いろいろなことに挑戦して、みんなで協力することができた」「友達をたくさん作れた」「班の全員が怪我をせずに竹を切ることができた」「自分の班が終わったら他の班を手伝うことができた」など、他者を気遣うような感想があった。

(3) 成果と課題

①成果

- ・ボランティアは企画運営委員3名、当日ボランティア9名の合計12名で実施した。企画運営委員自身が、今までの活動中に関わった学生ボラを個別に勧誘し、より身近で気の置けないメンバーで実施したことは、事前の円滑な打ち合わせや、当日の臨機応変な対応に繋がった。（追加で施設のボランティア登録リストにも募集をかけたが、応募者はいなかった。）
- ・「竹」をテーマに活動プログラムを構成した。クラフトの材料としての活用や野外炊事の道具としての活用など、同じ素材を異なる使用用途で利用したことは、参加者を飽きさせないことや事業プログラムの統一感を向上させることに繋がった。

②課題

- ・事業当日のプログラム進行時間が予定と合わず、運営委員と他のボランティアの間で先の見通しが異なる場面があった。不測の事態に備えて、ボランティア間の連絡体制を確実に定めておく必要がある。

4 事業の様子



【アイスブレイク】



【竹ランタン作り】



【バウムクーヘン作り】



【キャンプファイヤー】



【運営ボランティア集合写真】

令和6年度国立能登青少年交流の家利用状況

利用者数及び宿泊室稼働率

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			年間 合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
宿泊総利用者数	5,840	4,760	5,754	5,358	6,738	4,129	1,673	2,342	3,428	1,165	242	1,041	42,470
日帰り総利用者数	1,711	777	743	994	1,648	404	1,894	1,619	889	561	157	1,677	13,074
総利用者数	7,551	5,537	6,497	6,352	8,386	4,533	3,567	3,961	4,317	1,726	399	2,718	55,544
宿泊室稼働率(%)	60.7%	35.2%	41.7%	42.5%	66.8%	38.8%	15.8%	24.2%	44.6%	68.3%	39%	59.1%	41.3%

※2月までは確定値。3月は3月10日時点の見込み値。

令和6年度国立能登青少年交流の家アンケート数値

事前相談満足度	66.7%	85.7%	80.0%	69.2%	71.9%	92.3%	100%	75.0%	71.4%	100%	100%	100%	84.4%
リピート率	100%	93.8%	90.0%	81.1%	82.2%	91.4%	100%	83.3%	88.2%	100%	100%	50%	88.3%
宿舎プログラム満足度	100%	100%	91.7%	94.1%	95.0%	95.6%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	96.6%
電話・メール対応	100%	100%	93.3%	94.6%	88.9%	97.1%	100%	100%	82.4%	100%	100%	100%	96.4%
窓口対応	100%	100%	96.7%	94.6%	91.1%	97.1%	100%	100%	82.4%	100%	100%	100%	96.8%

※2月までは確定値。3月は3月10日時点の見込み値。

あとがき

文部科学省の調査では、「小学生の頃に体験活動の機会に恵まれていると、高校生の頃の自尊感情が高くなる傾向が、家庭の経済状況などに左右されることなく見られる」という報告がされています。これは、幼少期から青年期にかけての体験活動が『生きる力』の基盤となり、様々な環境の中でのかかわりによって、「よりよい生活」を創出することにつながっていると考えられます。

令和6年度に実施した各事業では、多くの子どもたちの満足感や達成感のある表情から「自己効力感」の高まりを感じられ、そして、短期間の中での成長を見ることができ、それぞれのねらいを概ね達成して成果を得られたのではないかと思います。各事業でご支援とご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

今後も未来を担う青少年のために、有意義な体験活動や研修の場を提供できますように努力してまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立能登青少年交流の家 次長 北 豊

令和6年度 国立能登青少年交流の家 職員

所長	北見 靖直
次長	北 豊
主任企画指導専門職	恩田 雅博
企画指導専門職	酒井 伸大 魚川 友康
主幹兼事業推進係長	
兼企画指導専門職	小泉 滋
事業推進係	松本 範子 谷野 美紅 郷原 直也 吉田 梨帆 福田 靖 齊藤 吉夫 岩野 靖子
総務・管理係	橋 知佳 松村 晃 木下 沙耶香 荒水 久夫



令和6年度 国立能登青少年交流の家事業報告書 *Do my best!*

■発行日 令和7年3月

■編集・発行者 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家
〒925-8530 石川県羽咋市柴垣町14-5-6
TEL 0767-22-3121(代) FAX 0767-22-3125